

科目名	インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日(60時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。従って本件で、単位修得の為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事を原則とする。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。又、確実な成果を上げるために、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事。

評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】 特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

【参考図書】

科目名	インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日(60時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。従って本件で、単位修得の為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事を原則とする。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。又、確実な成果を上げるために、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事。

評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】 特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

【参考図書】

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

5日(35時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。その為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事が望ましい。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】 特にない。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

【参考図書】

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

5日(35時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。その為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事が望ましい。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

授業外学習

- 【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。
- 【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】 特にない。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

【参考図書】

科目名	言語表現論		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

*参加型のアクティブラーニングで授業を進めます。

社会で求められているコミュニケーション能力とは何かを理解し必要なスキルを実践的に学び、「書く」「考える」「伝える」「理解する」力の基礎を身に付ける。

グループワークで、アウトプット、フィードバックの訓練をおこないます。

自分の考えを言語化し、見える状態にすることから始めます。
マインドマップを基本ツールとしてマスターしてもらいます。

内容

- 1 この授業の意味と評価の方法。
- 2 コミュニケーション能力とは何か。
- 3 マインドマップというツール
- 4 メディア力を高める
- 5 考える、書く、実行する方法 1
- 6 考える、書く、実行する方法 2
- 7 相手理解と伝える行為 1
- 8 相手理解と伝える行為 2
- 9 伝わる・揺さぶる 1
- 10 伝わる・揺さぶる 2
- 11 アウトプットとフィードバック
- 12 社会が求める言語運用能力とのギャップ
- 13 続けるコツと学びあい
- 14 継続的マップ化
- 15 振り返り

評価

獲得したポイントにより評価します。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・
D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】1週間の体験・経験からの気づきの言語化

【事後学修】獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次前期音声表現コミュニケーション(基礎)で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指しています。

科目の概要

特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

学修目標(=到達目標)

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものです。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分です。

内容

授業は、3クラス同時進行し、適宜3クラス合同1教室で行うこともあります。

1	導入：デーバートとは（3クラス共通）
2	ディバートのしくみ
3	ディバートの流れ
4	ディバートの目的と立論
5	課題：データカードの提出
6	論題の内容理解
7	論題の検討と分析
8	反論の準備
9	評価の方法（3クラス共通）
10	課題：＜立論/反対尋問シートの提出＞
11	課題による立論強化
12	フローシート作成
13	フローシート完成
14	課題 クラス代対抗ディバート
15	まとめ クラス対抗ディバート

評価

3回の課題(20%×3)とディベート実践(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1時間。前週に指定された課題を検討

【事後学修】チェックされた部分の訂正を30分程度で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の練習まで』あさ出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

2年次前期音声表現コミュニケーション（基礎）で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指しています。

科目の概要

特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

学修目標（=到達目標）

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものです。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分です。

内容

1	導入：デーバートとは（3クラス共通）
2	ディバートのしくみ
3	ディバートの流れ
4	ディバートの目的と立論
5	課題：データカードの提出
6	論題の内容理解
7	論題の検討と分析
8	反論の準備
9	評価の方法（3クラス共通）
10	課題：＜立論／反対尋問シートの提出＞
11	課題による立論強化
12	フローシート作成
13	フローシート完成
14	課題 クラス対抗ディバート
15	まとめ クラス対抗ディバート

評価

3回の課題（20%×3）とディバート実践（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1時間。前週に指定された課題を検討

【事後学修】チェックされた部分の訂正を30分程度で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅくみから試合の練習まで』あさ出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次前期音声表現コミュニケーション(基礎)で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指しています。

科目の概要

特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

学修目標(=到達目標)

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものです。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分です。

内容

1	導入：ディベートとは（3クラス共通）
2	ディベートのしくみ
3	ディベートの流れ
4	ディベートの目的と立論
5	課題：データカードの提出
6	論題の内容理解
7	論題の検討と分析
8	反論の準備
9	評価の方法（3クラス共通）
10	課題：＜立論/反対尋問シートの提出＞
11	課題による立論強化
12	フローシート作成
13	フローシート完成
14	課題 クラス対抗ディベート
15	まとめ クラス対抗ディベート

評価

3回の課題(20%×3)とディベート実践(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】1時間。前週に指定された課題を検討

【事後学修】チェックされた部分の訂正を30分程度で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅくみから試合の練習まで』あさ出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	音声表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格・・・話しことばによるコミュニケーションの基本と応用を、理論の学習と実技の演習を通して学び、理解力と表現力、構成力の向上を図る。

科目の概要・・・現代は、どの社会にあっても高いコミュニケーション能力が求められる。日本語を「話す」「聞く」ことの基礎、待遇表現としての敬語の基本も学ぶ。演習形式で授業をおこなうため、受講制限がなされる場合もある。特に積極的な学生の参加を希望する。

学修目標・・・パブリックスピーキングの修得。自分のことばで自分の考えをまとめ、相手の心に届けられる話し手になるのが目標である。

内容

1	発音発声の基礎
2	聞き手の心をつかむ分かりやすい話し方
3	報告・レポート・プレゼンテーション
4	タイトルをつけてスピーチをする
5	スピーチ原稿を書き、構成力や文章力を磨く
6	「敬語の指針」を中心に敬語の基礎を学ぶ
7	待遇表現としての敬語についての考察
8	インタビューと取材
9	良い「聞き手」とは
10	子どものことばの発達
11	親子のコミュニケーションについて
12	介護・医療の現場でのコミュニケーション
13	教育現場でのコミュニケーション
14	地域・社会でのコミュニケーション
15	まとめ

評価

授業への参加意欲（30%）、口頭発表（30%）、レポート（30%）、授業への貢献度（10%）により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回ミニレポートや課題が出るのでその準備をする。

【事後学修】自分の音声表現を再検討する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【推薦書】「新版NHKアナウンスセミナー」（NHK出版）

【参考図書】「話しことばの花束」（好本恵・リヨン社）など

科目名	文章表現ワークショップ（基礎）		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目ではエッセイや詩、小説など多様な文章形態の基礎を学び、文章表現に必要な知識と技術を養うことを目的とします。さらに国内外の文芸作品の読解を通じて、様々な価値観と世界観を理解し、視野と思考を広げることを目的とします。

創作を構造的に理解する一環として、物語論について学びます。物語の成立に必要な要素を知ること、小説読解への思考を深めることを目指します。

これらを踏まえて、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。さらに自分の選んだ文章形態で創作し、冊子としてまとめることを発展的目標とします。

科目の概要

この科目ではエッセイや詩、小説など多様な文章形態の基礎を学び、文章表現に必要な知識と技術を養うことを目的とします。さらに国内外の文芸作品の読解を通じて、様々な価値観と世界観を理解し、視野と思考を広げることを目的とします。

創作を構造的に理解する一環として、物語論について学びます。物語の成立に必要な要素を知ること、小説読解への思考を深めることを目指します。

これらを踏まえて、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。さらに自分の選んだ文章形態で創作し、冊子としてまとめることを発展的目標とします。

内容

- 1 ガイダンス 言葉による表現について
- 2 観察と写生 文章を書く
- 3 エッセイ 表記の基礎
- 4 エッセイ テーマと構成
- 5 エッセイ 文体とエピソード
- 6 詩 イメージを言葉にする
- 7 小説 創作について
- 8 小説 構造を理解する
- 9 小説 テーマと材料
- 10 小説 関係性の描写と情景描写
- 11 小説 内面の描写
- 12 書評 客観性について
- 13 創作の構想
- 14 演習

評価

各回の授業取り組みと課題提出などで60点、演習で40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で取り上げる作品または関連する事項（作家や同じ文章形態の作品など）に当たってください。

【事後学修】授業内で配布された資料を基に、興味関心を持った点（作品や作家、同時代の事象など）について自分なりにアプローチをしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定せず、授業内でレジユメ及び資料を配布します。

【推薦書】授業内で適宜紹介していきます。

【参考図書】授業内で適宜紹介していきます。

科目名	文章表現ワークショップ（基礎）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

松永のこのクラスは

自分のメディア力を高める！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

科目の概要

考える道具としての文章表現、説得するための文章表現、楽しむための文章表現、それぞれの能力を演習を通して向上させることを目的とします。Webやブログ、雑誌の中の効果的な表現を分析的に見ていきます。また、ここから学んだTipsを用い実践的な演習を積み、表現能力の向上を目指します。授業はグループワークセッションを基本に進めます。ワークの中ではMind-mapを用いたOut putの訓練も併せておこないます。

講義の性質上、授業内の演習だけでなく、たくさんの課題を課すこととなりますが、学生諸君の積極的な参加を希望します。

学修目標（＝到達目標）

自分のメディア力を高める！表現能力の向上を目指します。

内容

- 第1回 何のための文章表現？
- 第2回 Mind-mapと文章作成
- 第3回 表現とフィードバック
- 第4回 身近なメディアを使った文章表現
- 第5回 ゲスト
- 第6回 分かりやすさ分かりにくさの分析
- 第7回 Web・ブログでの文章表現分析
- 第8回 課題プレゼン1
- 第9回 コンテンツを探す
- 第10回 情報の編集とOut put
- 第11回 グループセッション1
- 第12回 グループセッション2
- 第13回～第15回 まとめOut put 1～3

評価

日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします）

授業外学習

【事前予習】1週間の中での体験経験を言語化、その中からPDCAサイクルを導き出す。
【事後学修】毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

巡業中に指示します。

科目名	文章表現ワークショップ（発展）		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目ではエッセイや詩、小説など多様な文章形態の基礎を学び、文章表現に必要な知識と技術を養うことを目的とします。さらに国内外の文芸作品の読解を通じて、様々な価値観と世界観を理解し、視野と思考を広げることを目的とします。

創作を構造的に理解する一環として、物語論について学びます。物語の成立に必要な要素を知ること、小説読解への思考を深めることを目指します。

これらを踏まえて、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。さらに自分の選んだ文章形態で創作し、冊子としてまとめることを発展的目標とします。

科目の概要

創作することを念頭に様々なタイプの文章を読み、対象、内容、構成の違いを学びます。エッセイでは表記の基礎、テーマと構成（3, 4, 5）、詩では言葉の表現力（6）、小説では物語論をベースに個々の作品読解を通じて構成、テーマ、描写（7, 8, 9, 10, 11）への理解を深めます。

学修目標（=到達目標）

多様な文章形態の構造を理解し、言葉による表現の特性を学びます。

物語の文法を理解し、創作に必要な構造的理解を深めます。

講義のアウトプットとして、創作作品を冊子にすることを目指します。

内容		
1	ガイダンス	言葉による表現について
2	観察と写生	文章を書く
3	エッセイ	表記の基礎
4	エッセイ	テーマと構成
5	エッセイ	文体とエピソード
6	詩	イメージを言葉にする
7	小説	創作について
8	小説	構造を理解する
9	小説	テーマと材料
10	小説	関係性の描写と情景描写
11	小説	内面の描写
12	書評	客観性について
13	創作の構想	
14	演習	
15	まとめ	

評価

各回の授業取り組みと課題提出などで60点、演習で40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で取り上げる作品または関連する事項（作家や同じ文章形態の作品など）に当たってください。

【事後学修】授業内で配布された資料を基に、興味関心を持った点（作品や作家、同時代の事象など）について自分なりにアプローチをしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定せず、授業内でレジユメ及び資料を配布します。

【推薦書】授業内で適宜紹介していきます。

【参考図書】授業内で適宜紹介していきます。

科目名	音声表現ワークショップ（基礎）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格・・・話しことばによるコミュニケーションの基本と応用を、理論の学習と実技の演習を通して学び、理解力と表現力、構成力の向上を図る。

科目の概要・・・現代は、どの社会にあっても高いコミュニケーション能力が求められる。日本語を「話す」「聞く」ことの基礎、待遇表現としての敬語の基本も学ぶ。演習形式で授業をおこなうため、受講制限がなされる場合もある。特に積極的な学生の参加を希望する。

学修目標・・・パブリックスピーキングの修得。自分のことばで自分の考えをまとめ、相手の心に届けられる話し手になるのが目標である。

内容

1	発音発声の基礎
2	聞き手の心をつかむ分かりやすい話し方
3	報告・レポート・プレゼンテーション
4	タイトルをつけてスピーチをする
5	スピーチ原稿を書き、構成力や文章力を磨く
6	「敬語の指針」を中心に敬語の基礎を学ぶ
7	待遇表現としての敬語についての考察
8	インタビューと取材
9	良い「聞き手」とは
10	子どものことばの発達
11	親子のコミュニケーションについて
12	介護・医療の現場でのコミュニケーション
13	教育現場でのコミュニケーション
14	地域・社会でのコミュニケーション
15	まとめ

評価

授業への参加意欲（30%）、口頭発表（30%）、レポート（30%）、授業への貢献度（10%）により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回ミニレポートや課題が出るのでその準備をする。

【事後学修】自分の音声表現を再検討する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【推薦書】「新版NHKアナウンスセミナー」（NHK出版）

【参考図書】「話しことばの花束」（好本恵・リヨン社）など

科目名	トレンド・ウォッチ（前編）		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本講義では、既存の社会学や政治学や文化論を批判することによって一九七〇年代以降イギリスで発展してきた「カルチュラル・スタディーズ」の理論と分析の基礎を学びながら、現代文化としてのサブカルチャーについて検討していく。対象とするのは、ヒップホップやR & Bなど（音楽）、ファッション、ライトノベルやウェブ小説など（文学）、お笑いや韓流ドラマなど（テレビ番組）、W杯やオリンピックなど（スポーツ）、携帯電話やSNSなど（インターネット）といったさまざまなサブカルチャー領域であり、これらの具体的な現象を丹念に調査・観察することを通じて、現代社会における文化の機能と役割、私たちの生活において文化が持っている意義などを探っていく。前半は理論について講義と文献輪読をし、後半は、グループに分かれてフィールドワークを行います。

内容

1. サブカルチャー論とはなにか？
2. サブカルチャーを分析するための理論（1）世界のサブカルチャー
3. サブカルチャーを分析するための理論（2）日本のサブカルチャー
4. サブカルチャーを分析するための理論（3）スタイルと実践
5. サブカルチャーを分析するための理論（4）プリコラージュとDIY精神
6. サブカルチャーを分析するための理論（5）人種とジェンダー
7. サブカルチャー調査のための計画を立てる（1）
8. サブカルチャー調査のための計画を立てる（2）
9. サブカルチャーの調査と観察（1）
10. サブカルチャーの調査と観察（2）
11. サブカルチャーの調査と観察（3）
12. サブカルチャーの調査と観察（4）
13. サブカルチャーの調査と観察（5）
14. 合同研究発表会
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

授業外学習

- 【事前予習】調査のプラント準備
- 【事後学修】集めてきた資料やインタビューの整理

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

佐藤郁哉・フィールドワーク〔増補版〕・新曜社

その他、必要な文献については授業内で適宜、説明する予定です。

科目名	トレンド・ウォッチ（後編）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1時折り見受けられる首都圏在住者の錯覚は、いわゆる全国紙、いわゆるテレビのキー局がメディアの総称と考えがちな点だが、これは誤りである。実際の世論形成はそうではない。生活者として地方に目を向けると、その地域の有力地方紙、地域民放などの影響力が強く、県民・市民の評価を受けていることが多い。そうした観点から私たちは、全国紙、キー局等がメディアの全てと思い込むことなく、地方紙や地方放送局、地方出版等のコンテンツを「複眼」で受けとめ正しく評価していく力を養う必要がある。

2本講義では、こうした認識のもと、特に、本学キャンパスのある埼玉県メディア企業(埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、ジェイコムさいたま、地方出版社、コミュニティFM)等の具体的な活動、ビジネスからメディアを見つめ、地域メディアの意義と活性化の展望、地域メディアが培う県民性、ニューメディアとの関係性などを学ぶ。

首都圏の範囲は広く、埼玉県のみならず関東の地理的位置づけや歴史文化を踏まえたコンテンツを重視し、メジャー紙やキー局との違いを打ち出す地域メディアの展開を視野に入れて授業を進める。

内容

1	ガイダンス
2	地方紙の展開に見るメディア論 1
3	地方紙の展開に見るメディア論 2
4	歴史を見据えた地方メディアのコンテンツ 1
5	歴史を見据えた地方メディアのコンテンツ 2
6	地方出版論 1
7	地方出版論 2
8	地方テレビ局の展開に見るメディア論
9	地方ラジオ今日の展開に見るメディア論
10	地方FM局の展開に見るメディア論
11	より地域に分け入るCATVの姿
12	東京に隣接した首都圏の地方メディアの立ち位置
13	地域メディアの意義と役割 1 (県民性)
14	地域メディアの意義と役割 2 (メジャーマスコミとの比較の中で)
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度指示。

科目名	時事解説（前編）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

現代社会に生きる日本人の基本的教養である、アジアにおける日本の歴史的な位置づけを確認する

科目の概要

映画で学ぶ、アジア史。「生き証人」のゲストスピーカーを招く。

学修目標（=到達目標）

現代社会に生きる日本人の基本的教養である、アジアにおける日本の歴史的な位置づけを理解する

内容

アジアと日本との国際的な近現代史を扱った、内外の映画資料を利用する。

基本的な進め方は、映画の背景解説、映画視聴、内容に関するDiscussion、というサイクルで行う。

現代史に関わる部分では、「生き証人」を教室にお招きして、歴史を証言していただくことも盛り込んでいきたい。

評価

隔週に提出してもらう小レポートを50点、Discussionを50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】アジアに関するニュースや動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】は使用しない。【推薦書】【参考図書】は適宜、授業内で紹介する

科目名	時事解説（後編）		
担当教員名	大西 正行、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

現代社会で起きている主要なニュースを知ることと併せ、これをメディアがどう報じているかにも注目し、時事問題への基礎的理解を深める。

社会・政治・経済・文化等の各分野を鳥瞰しつつ、取り上げたそれぞれのテーマを理解し掘り下げていくための土台をつくる。

社会・政治・経済・文化はそれぞれが分断されているのではなく、相互に関連し合ってニュースは生まれ、メディアを通して私たちは伝えられた情報の意味を自分なりに受けとめている。単なる暗記的理解を超えて、「表に現れた事象の奥に潜んでいるもの」を洞察できる力を養いたい。

内容

ニュースを通してメディアへの理解や時事問題の見方を学ぶ。様々なメディアを理解しながらメディアの特質・影響力を学び、ニュースの見方を学びながら時事問題への理解を深める。同時にその時々々のニュースを取り上げ解説する。

現代のますます複雑化するマスメディアが報道する多量のニュースの中から現代社会で生活する上で真に必要な情報の取舍選択を行い得るメディア・リテラシーを身に付けるためのテーマを取り上げる。その範囲は政治・経済・文化、国際問題等に渡り、ニュースとニュースの関連性も学ぶ。受講生は日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

評価

授業への取り組み70点、2名の担当者が出すによる課題執筆30点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】常日頃、新聞、テレビ等でニュースに接することが肝要である。

【事後学修】授業の最後に書いてもらう「感想文」などから自己の理解を発展させる習慣付けを求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『ニュース検定3・4級公式テキスト』（毎日新聞社）

科目名	時事問題ワークショップ(前編)		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標(=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	時事問題ワークショップ(後編)		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標(=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	コンピュータプレゼンテーション技法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・学科基礎専門科目での位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。
- ・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。
- ・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

内容

- ・『PowerPoint』の基本操作
- ・プレゼンテーションのプランニングと構成
- ・スライドの作成
- ・人前で話すための基本姿勢
- ・プレゼンテーション演習

1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションの基本概念
3	プレゼンテーションマインドを高める
4	プレゼンテーションの設計
5	プレゼンテーションの極意
6	プレゼンテーションの評価
7	ビジュアルプレゼンテーション演習
8	グループプレゼンテーション課題 1
9	グループプレゼンテーション課題 2
10	グループプレゼンテーション課題 3
11	プレゼンテーション制作 1
12	プレゼンテーション制作 2

13	プレゼンテーション制作3
14	発表・評価
15	まとめ

評価

毎回授業後48時間以内に、まとめ&感想（質問含む）と Self-evaluationをメールで送信（提出 基礎点... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題...3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

授業外学習

【事前予習】制作発表における事前課題の実施

【事後学修】授業に関する事後評価の実施

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山崎紅，説得できるプレゼンの鉄則（PowerPoint上級極意編），日経BP

【参考図書】中澤務・森貴史・本村康哲編，『知のナビゲーター』，くろしお出版(入門ゼミナールと同じ)

科目名	コンピュータプレゼンテーション技法		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・学科基礎専門科目での位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。
- ・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。
- ・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

内容	
1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションの基本概念
3	プレゼンテーションマインドを高める
4	プレゼンテーションの設計
5	プレゼンテーションの極意
6	プレゼンテーションの評価
7	ビジュアルプレゼンテーション演習
8	グループプレゼンテーション課題 1
9	グループプレゼンテーション課題 2
10	グループプレゼンテーション課題 3
11	プレゼンテーション制作 1
12	プレゼンテーション制作 2
13	プレゼンテーション制作 3
14	発表・評価
15	まとめ

評価

毎回授業後48時間以内に、まとめ&感想（質問含む）と Self-evaluationをメールで送信（提出 基礎
点... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・
...3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題...5~10ポイント合計ポイントと評価
...D<60 C<70 B<80 A（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

授業外学習

【事前予習】制作発表における事前課題の実施

【事後学修】授業に関する事後評価の実施

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山崎紅，説得できるプレゼンの鉄則（PowerPoint上級極意編），日経BP

【参考図書】中澤務・森貴史・本村康哲編，『知のナビゲーター』，くろしお出版(入門ゼミナールと同じ)

科目名	DTP演習		
担当教員名	海保 透		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「メディア」を介し、情報を発信するさまざまな知(科学)を学ぶメディアコミュニケーション学科の基本的・代表的な視覚言語表現手法の一つである「DTP」の基礎課程。

科目の概要

「DTP」とは、コンピュータをツールとして、意図して伝えたい情報を目的や方針・条件のもとに収集・整理し、文章や写真などの素材を用いて、書物(冊子類)や新聞などの印刷誌面形態(メディア)に組み立てる『編集・構成(デザイン)作業』である。

学修目標(=到達目標)

共通テーマを設定し、実験的演習制作作業を通じて、基礎的な知識と発想表現力の習得、コンピュータソフト(Adobe イラストレータ・フォトショップなど)の基本的操作の把握、更に、実践的応用展開(マガジンやブックレット制作)に向けてのスキルアップへ繋げる。

内容

第1週 オリエンテーション

具体的な学習内容/スケジュール/履修上の注意事項などの提示。

第2週 「DTP」=編集構成作業(レイアウトデザイン)の基本プロセスを解説。

視覚表現の手法。基礎知識・実例作品の紹介・解説。

第3週~ 準備演習=WORK.0

- 1) コンピュータソフト(Adobeイラストレータ・フォトショップなど)の基本的操作
- 2) 誌面を設定する/文字を組む/色を付ける
- 3) 画像(写真・イラストなど)を創る(処理・加工する)

第6週~ 基礎演習 =WORK.1 作品制作(スモールグラフィック)

制作作業(提供素材~発想イメージ~)経過報告(素材・サムネール提出)など

第9週 WORK.1 作品提出/プレゼンテーション発表/データ保存

第10週~ 基礎演習 =WORK.2 作品制作(リーフレットなど)

制作作業(発想イメージ~情報・素材収集~)データ更新・経過報告・出力見本の提出/検討

第14週~ WORK.2 作品提出/プレゼンテーション発表・講評

第15週~ 総括

評価

提出された[課題作品][ミニレポート]また授業内でテスト形式での課題制作など演習作業=理解力/計画力/構成力/技術力/発表力/総合力を評価 80%、その他、授業に臨む姿勢=関心・意欲・提出状況など 20% 総合評価6

0点以上を合格とする。

授業外学習

毎回連続した演習授業形態を執りますので、課題制作においては、翌週へ向けての事後学修・事前準備作業などの宿題ミニレポートを課します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特定したテキストは用いないが、授業内容に応じて、毎回資料プリントを配付。

また私自身の参考作品素材を提示・解説。参考資料・文献など周辺関連情報の提供を心掛ける。

科目名	DTP演習		
担当教員名	海保 透		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「メディア」を介し、情報を発信するさまざまな知(科学)を学ぶメディアコミュニケーション学科の基本的・代表的な視覚言語表現手法の一つである「DTP」の基礎課程。

科目の概要

「DTP」とは、コンピュータをツールとして、意図して伝えたい情報を目的や方針・条件のもとに収集・整理し、文章や写真などの素材を用いて、書物(冊子類)や新聞などの印刷誌面形態(メディア)に組み立てる『編集・構成(デザイン)作業』である。

学修目標(=到達目標)

共通テーマを設定し、実験的演習制作作業を通じて、基礎的な知識と発想表現力の習得、コンピュータソフト(Adobe イラストレータ・フォトショップなど)の基本的操作の把握、更に、実践的応用展開(マガジンやブックレット制作)に向けてのスキルアップへ繋げる。

内容

第1週 オリエンテーション

具体的な学習内容/スケジュール/履修上の注意事項などの提示。

第2週 「DTP」=編集構成作業(レイアウトデザイン)の基本プロセスを解説。

視覚表現の手法。基礎知識・実例作品の紹介・解説。

第3週~ 準備演習 = WORK.0

- 1) コンピュータソフト(Adobeイラストレータ・フォトショップなど)の基本的操作
- 2) 誌面を設定する/文字を組む/色を付ける
- 3) 画像(写真・イラストなど)を創る(処理・加工する)

第6週~ 基礎演習 = WORK.1 作品制作(スモールグラフィック)

制作作業(提供素材~発想イメージ~)経過報告(素材・サムネール提出)など

第9週 WORK.1 作品提出/プレゼンテーション発表/データ保存

第10週~ 基礎演習 = WORK.2 作品制作(リーフレットなど)

制作作業(発想イメージ~情報・素材収集~)データ更新・経過報告・出力見本の提出/検討

第14週~ WORK.2 作品提出/プレゼンテーション発表・講評

第15週~ 総括

評価

提出された[課題作品][ミニレポート]また授業内でテスト形式での課題制作など演習作業 = 理解力/計画力/構成力/

技術力 / 発表力 / 総合力を評価 80% 、その他、授業に臨む姿勢 = 関心・意欲・提出状況など 20% 総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

毎回連続した演習授業形態を執りますので、課題制作においては、翌週へ向けての事後学修・事前準備作業などの宿題ミニレポートを課します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特定したテキストは用いないが、授業内容に応じて、毎回資料プリントを配付。

また私自身の参考作品素材を提示・解説。参考資料・文献など周辺関連情報の提供を心掛ける。

科目名	ウェブ・デザイン		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1年次の基礎的な情報処理演習を受けて、情報発信の手段のひとつとしてWebページによる表現力を身に着ける。

科目の概要

Webページを自分でデザインし、それを実現する能力を養う。HTML言語とスタイルシートを自分で書くことにより、その仕組みを理解する。JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページをめざす。

学修目標(=到達目標)

1. ホームページの仕組みを理解する。
2. HTMLとスタイルシートを使って、Webページのデザインができる。
3. JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページができる

内容

1	HTMLの基本のおさらいと授業の進め方について
2	配色に関する基本的な考え方
3	Webページの配色の実習
4	段落の書き方
5	マージンとパディング
6	図と文章の回り込み
7	ナビゲーションの作成
8	1段組レイアウト
9	2段・3段組レイアウト
10	z-indexを使用した自由なレイアウト
11	表(table)の利用
12	ID・Classを使った統一的なデザイン
13	自由課題作成
14	自由課題作成
15	自由課題の相互評価, 課題に関する振り返りとまとめ

評価

授業への参加度20%、毎回の授業時の提出課題60%、および最終課題への取り組み20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ネットワークフォルダに置かれている解説を読み、難解な部分をチェックしておく

【事後学修】提出課題と学習内容を再度見直し、疑問点を解消しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず，学内ネットワーク上に解説と課題を置く

【推薦書】日本工業規格、JIS X 8341-3

【参考図書】教室で紹介する

科目名	ウェブ・デザイン		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1年次の基礎的な情報処理演習を受けて、情報発信の手段のひとつとしてWebページによる表現力を身に着ける。

科目の概要

Webページを自分でデザインし、それを実現する能力を養う。HTML言語とスタイルシートを自分で書くことにより、その仕組みを理解する。JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページをめざす。

学修目標(=到達目標)

1. ホームページの仕組みを理解する。
2. HTMLとスタイルシートを使って、Webページのデザインができる。
3. JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページができる

内容

1	HTMLの基本のおさらいと授業の進め方について
2	配色に関する基本的な考え方
3	Webページの配色の実習
4	段落の書き方
5	マージンとパディング
6	図と文章の回り込み
7	ナビゲーションの作成
8	1段組レイアウト
9	2段・3段組レイアウト
10	z-indexを使用した自由なレイアウト
11	表(table)の利用
12	ID・Classを使った統一的なデザイン
13	自由課題作成
14	自由課題作成
15	自由課題の相互評価, 課題に関する振り返りとまとめ

評価

授業への参加度20%、毎回の授業時の提出課題60%、および最終課題への取り組み20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ネットワークフォルダに置かれている解説を読み、難解な部分をチェックしておく

【事後学修】提出課題と学習内容を再度見直し、疑問点を解消しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず，学内ネットワーク上に解説と課題を置く

【推薦書】日本工業規格、JIS X 8341-3

【参考図書】教室で紹介する

科目名	コンピュータアニメーション		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルをさらに発展させることを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習の授業に関心があること必要である。

科目の概要 まず、アニメーションに対して、心理学的な考察、物理学的な考察、数学的な考察を行う。それらを踏まえた上で、サウンド、写真などを盛り込んだ、アニメーションを作成する。特に、題材としては、「言葉」「文学」に焦点をあてて、作品を作成する。

学修目標 わかりやすく表現する方法としてのアニメーションの特性を理解する。コンピュータのスキルを発展させる。表現への興味、関心を高める。コンピュータのスキルを高める。

内容

1	オリエンテーション
2	人間に連続的に見えるアニメーションの原理について、視覚心理学的な考察を行う。
3	アニメーションにおいて欠かせないサウンドについて、聴覚心理学的な考察を行う。
4	アニメーションの技法において重要な、視聴覚の相互作用について考察を行う。
5	物理学的な考察 色、音を扱うために、その初歩を学ぶ。
6	数学的な考察 3次元空間に関する「感覚」が必要である。その感覚を養う。
7	教育学的な考察 アニメーションを作成するために、教育的に適切な分野は何か考察する。
8	ペイント系ソフトウェアの基本的な学習
9	ドロー系ソフトウェアの基本的な学習
10	映像系ソフトウェアの基本的な学習
11	映像系ソフトウェアの応用的な学習 特に画像系ソフトウェアとの関係からの学習
12	音声系ソフトウェアの基本的な学習
13	音楽系ソフトウェアの基本的な学習
14	アニメーションの作成 教育的な目標を設定し、簡単なアニメーションを作成する。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品(15点)を、150点満点(15X10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 テレビ、映画に限らず、雑誌、CMなど、気になる表現へ一層の注意を払っての観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 プリントを配布

推薦書かつ参考図書 CGWORLD スマートイメージ(編)CG 映像しくみ事典 ワークスコーポレーション

科目名	コンピュータアニメーション		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルをさらに発展させることを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習の授業に関心があること必要である。

科目の概要 まず、アニメーションに対して、心理学的な考察、物理学的な考察、数学的な考察を行う。それらを踏まえた上で、サウンド、写真などを盛り込んだ、アニメーションを作成する。特に、題材としては、「言葉」「文学」に焦点をあてて、作品を作成する。

学修目標 わかりやすく表現する方法としてのアニメーションの特性を理解する。コンピュータのスキルを発展させる。表現への興味、関心を高める。コンピュータのスキルを高める。

内容

1	オリエンテーション
2	人間に連続的に見えるアニメーションの原理について、視覚心理学的な考察を行う。
3	アニメーションにおいて欠かせないサウンドについて、聴覚心理学的な考察を行う。
4	アニメーションの技法において重要な、視聴覚の相互作用について考察を行う。
5	物理学的な考察 色、音を扱うために、その初歩を学ぶ。
6	数学的な考察 3次元空間に関する「感覚」が必要である。その感覚を養う。
7	教育学的な考察 アニメーションを作成するために、教育的に適切な分野は何か考察する。
8	ペイント系ソフトウェアの基本的な学習
9	ドロー系ソフトウェアの基本的な学習
10	映像系ソフトウェアの基本的な学習
11	映像系ソフトウェアの応用的な学習 特に画像系ソフトウェアとの関係からの学習
12	音声系ソフトウェアの基本的な学習
13	音楽系ソフトウェアの基本的な学習
14	アニメーションの作成 教育的な目標を設定し、簡単なアニメーションを作成する。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品(15点)を、150点満点(15X10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備 テレビ、映画に限らず、雑誌、CMなど、気になる表現へ一層の注意を払っての観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 プリントを配布

推薦書かつ参考図書 CGWORLD スマートイメージ(編)CG 映像しくみ事典 ワークスコーポレーション

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要...1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標（＝到達目標）...1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス スタートアップ
- 第2回 新規プロジェクトの作成 プロジェクトおよびファイルの管理
- 第3回 コピーとペースト 削除と「元に戻す」
- 第4回 基本的操作の確認 テンポと拍子の設定 トランスポーズ
- 第5回 ドラムセットの入力
- 第6回 スコア課題(1)MIDI入力
- 第7回 スコア課題(2)MIDI入力
- 第8回 スコア課題(3)MIDI入力 強弱表現について
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化 ミックスダウン
- 第10回 オーディオループ素材を活用したトラック制作
- 第11回 創作課題(1)MIDI入力
- 第12回 創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
- 第13回 創作課題(3)メロディパートの創作
- 第14回 ミックスダウン オーディオCD作成 試聴
- 第15回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

提出作品の評価40% 授業への参加度60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについては下調べをする。

【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。

【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健 著 リットーミュージック

【参考図書】随時紹介

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要...1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標（＝到達目標）...1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス スタートアップ
- 第2回 新規プロジェクトの作成 プロジェクトおよびファイルの管理
- 第3回 コピーとペースト 削除と「元に戻す」
- 第4回 基本的操作の確認 テンポと拍子の設定 トランスポーズ
- 第5回 ドラムセットの入力
- 第6回 スコア課題(1)MIDI入力
- 第7回 スコア課題(2)MIDI入力
- 第8回 スコア課題(3)MIDI入力 強弱表現について
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化 ミックスダウン
- 第10回 オーディオループ素材を活用したトラック制作
- 第11回 創作課題(1)MIDI入力
- 第12回 創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
- 第13回 創作課題(3)メロディパートの創作
- 第14回 ミックスダウン オーディオCD作成 試聴
- 第15回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

提出作品の評価40% 授業への参加度60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする。

【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。

【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健 著 リットーミュージック

【参考図書】随時紹介

科目名	コンピュータグラフィック（基礎）		
担当教員名	安達 一寿、加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科・社会情報学部-マスメディアコース専門選択科目である。コンピュータソフトを使用した、創作活動に関心がある学生向けである。

科目の概要

各個人がコンピュータでアプリケーションを操作しながら、画像編集・加工ソフトであるAdobe「Photoshop」や「Illustrator」の操作方法を具体的に学んでいく。

他の演習系授業とも連携しつつ、Webデザイン、紙のデザイン、アニメーション等、各個人の今後の創作活動に有用な基礎を養っていく。

学修目標

- ・「Photoshop」や「Illustrator」の基本操作ができる。
- ・「Photoshop」や「Illustrator」の活動場面を理解し、自分で作品を創作できる。

内容	
1	オリエンテーション?
2	画像編集 (Photoshop) と画像描画 (Illustrator) の基本について?
3	画像の編集 加工の基礎?
4	画像の編集 合成の基礎?
5	画像の編集 色調の基礎?
6	--第一回 課題の制作--
7	画像の編集 レイヤーを利用した複合的編集?
8	画像の編集 マスク等を利用した応用的編集?
9	--第二回 課題の制作--?
10	画像の描画 描画の基礎?
11	画像の描画 曲線描画の基礎?
12	画像の描画 立体描画の基礎?
13	--最終課題の制作--?
14	--最終課題の制作--?
15	まとめ

評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点40%、課題の評価点60%で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各々、演習室にてAdobe「Photoshop」の操作にトライしておくことが望ましい。

【事後学修】基本、紙の教材は仕様しない。前回までの内容を復習した状態で授業に参加することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	ラジオ番組制作演習		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 音声のみによるメディアであるラジオ。テレビの全盛期には長期的な凋落傾向にあったが先の震災をきっかけに再評価され、いままた注目されている。ネットラジオが普及し、スマートフォンやPCで無数のチャンネルにアクセスできるようになったことも大きい。この授業ではワークショップ形式でラジオ番組制作を体験することによって、あらためてラジオというメディアの特性や可能性を探っていく。

科目の概要

- ・報道番組、紹介番組、解説番組、キャンペーン番組のなかからひとつを選び、番組を制作する。
- ・音楽番組を制作する。

制作した番組は試聴会を行い、相互に評価をする。

学修目標(=到達目標)

ラジオ番組の特性を理解し、目的に沿った番組作りを考えて的確にメッセージを発信できるようになる。
また、録音や編集を通じて音声制作ツールのスキルを高める。

内容

- 第1回 オリエンテーション ラジオの特性と可能性
- 第2回 番組制作 番組企画書
- 第3回 取材 録音
- 第4回 企画構成カード、放送原稿の作成
- 第5回 制作実習(1) 構成 音声編集
- 第6回 制作実習(2) BGM、SE(効果音)作成
- 第7回 制作実習(3) BGM、SE(効果音)作成
- 第8回 ミックスダウン エンコード 試聴会
- 第9回 番組制作 番組企画書
- 第10回 選曲 取り込み
- 第11回 企画構成カード、放送原稿の作成
- 第12回 制作実習(1) 録音
- 第13回 制作実習(2) 構成 音声編集
- 第14回 制作実習(3) BGM、SE(効果音)作成
- 第15回 まとめ ミックスダウン エンコード 試聴会

授業の進度は作業の進捗状況などから判断して調整することがあります。

評価

平常点、授業参加態度など40%、提出物の評価60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

なお、規定の提出物が出ていない場合は評価できません。

授業外学習

【事前予習】日常的にラジオ番組をよく聴きこんでおくこと。もしラジオを持っていなくても手持ちのスマートフォンアプリやパソコンなどで簡単に聴取できます。

【事後学修】取材や編集など、授業のペースに合わせて適宜行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、推薦書については随時紹介する。

科目名	映像編集演習		
担当教員名	北川 仁		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、映像を実践的に学ぶことに興味がある学生向けである。

科目の概要

カメラ・映像編集ソフトウェア等の操作方法を学びながら、映像撮影・編集の基礎を学習する。

各個人が企画を考え、撮影機材・PCを操作し、実際に作品を制作していきながら、カメラ・Premiere等の操作方を具体的に学んでいく。

今後の各個人での表現活動に生かせるよう、映像メディアにおける「説話的な表現」の実践・解説を積極的に講義に取り入れていく。

本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

学修目標(=到達目標)

- ・カメラ・編集ソフトウェア等の基本操作ができる。
- ・映像特有の表現方法を、具体的に理解できる。
- ・一定の内容を持った映像作品の制作ができる。

内容

1	オリエンテーション
2	班分け・企画立案の基礎
3	撮影実習 カメラ操作
4	撮影実習 フォーカス・照明等
5	撮影実習 録音
6	編集実習 Premiereの基本操作・取り込み・カット編集
7	編集実習 テロップ・エフェクト・カラコレ
8	編集実習 書き出し
9	企画立案・進捗報告
10	課題制作 撮影・編集
11	課題制作 撮影・編集
12	課題制作 撮影・編集
13	仕上げ 整音
14	仕上げ カラコレ・書き出し
15	上映・総評

評価

課題制作60%、授業への参加・課題の取り組み状況等の平常点40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

授業時間外も積極的にチームごとに企画立案・課題制作を行えると望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は都度、プリント等を配布する。

科目名	映像編集演習		
担当教員名	北川 仁		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、映像を実践的に学ぶことに興味がある学生向けである。

科目の概要

カメラ・映像編集ソフトウェア等の操作方法を学びながら、映像撮影・編集の基礎を学習する。

各個人が企画を考え、撮影機材・PCを操作し、実際に作品を制作していきながら、カメラ・Premiere等の操作方法を具体的に学んでいく。

今後の各個人での表現活動に生かせるよう、映像メディアにおける「説話的な表現」の実践・解説を積極的に講義に取り入れていく。

本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

学修目標(=到達目標)

- ・カメラ・編集ソフトウェア等の基本操作ができる。
- ・映像特有の表現方法を、具体的に理解できる。
- ・一定の内容を持った映像作品の制作ができる。

内容

1	オリエンテーション
2	班分け・企画立案の基礎
3	撮影実習 カメラ操作
4	撮影実習 フォーカス・照明等
5	撮影実習 録音
6	編集実習 Premiereの基本操作・取り込み・カット編集
7	編集実習 テロップ・エフェクト・カラコレ
8	編集実習 書き出し
9	企画立案・進捗報告
10	課題制作 撮影・編集
11	課題制作 撮影・編集
12	課題制作 撮影・編集
13	仕上げ 整音
14	仕上げ カラコレ・書き出し
15	上映・総評

評価

課題制作60%、授業への参加・課題の取り組み状況等の平常点40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

授業時間外も積極的にチームごとに企画立案・課題制作を行えると望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は都度、プリント等を配布する。

科目名	コンピュータによるマガジン制作演習		
担当教員名	海保 透		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「メディア」を介し、情報を発信するさまざまな知(科学)を学ぶメディアコミュニケーション学科の基本的・代表的な視覚言語表現手法の一つである「DTP」の応用課程。

科目の概要

「DTP」とは、コンピュータをツールとして、情報を目的や方針・条件のもとに収集・整理し、文章や写真などの素材を用いて、書物(冊子類)や新聞などの印刷形態(メディア)に組み立てる『編集・構成(デザイン)作業』である。原則として、前期の[DTP基礎]履修を前提とする。

学修目標(=到達目標)

基礎演習を踏まえ、社会的で興味深いテーマを発見・討論し、具体的な実習制作作業を通じて、実社会に役立つ横断的な知識・発想表現力を養い、頁レイアウト編集ソフト(Adobeインデザイン)の基本的操作の把握、スキルの習得・向上と、更にさまざまなマルチ・メディアへ対応でき得る応用展開を視座におき、社会性・協調性を持ち、正確で美しく伝えられる、創造的で魅力的な誌面表現を目指す。

内容

第1週 オリエンテーション

具体的な学習内容/スケジュール/履修上の注意事項などの提示。

第2週 「DTP」基礎知識・実例作品の紹介・解説

編集構成作業(エディトリアルデザイン)の基本プロセスを解説。視覚表現の方法論。

第3週~ 準備演習 = WORK.0

- 1) レイアウト誌面の基本設計 マスターページ/フォーマットの作り方
- 2) 文字の組版/色彩の設定/画像の処理・加工

第5週~ 応用演習 = WORK.2 作品制作(ブックレット・マガジンなどの協働制作)

共通共有テーマの発見・提案 ~ 検討 ~ 決定 グループワーク

発想イメージ ~ 情報・素材収集 ~ 制作作業/経過報告(素材・サムネール提出)など

第8週~ WORK.2 プレゼンテーション発表 パワーポイントによる中間報告

第9週~ WORK.2 制作作業 続行/データ更新・経過報告 など

第13週~ WORK.2 出力見本の提出/検討

第14週~ WORK.2 作品提出/プレゼンテーション発表 講評

第15週~ 総括

評価

提出された[課題作品][ミニレポート](グループ/個人)および通常の演習作業 = 理解力/計画力/構成力/技術力/

発表力 / 総合力を評価 80% 、その他、授業に臨む姿勢 = グループワーク協働作業への参加意欲・発言・提出状況など 20% 総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

毎回連続した演習授業形態を執りますので、課題制作においては、グループとして、また個人として、翌週へ向けての事後学修・事前準備作業などの宿題ミニレポートを課します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特定したテキストは用いないが、授業内容に応じて、毎回資料プリントを配付。

また私自身の参考作品素材を提示・解説。参考資料・文献や周辺関連情報の提供を心掛ける。

科目名	マガジン制作ワークショップ（基礎）		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

インターネットなどの電子メディアが勢いを増しつつある今日、紙媒体のメディアである「雑誌」と雑誌が形成する文化は衰退の危機にあるとも言われている。本講義では、衰退しつつある雑誌文化が、現在、電子メディアに対抗（ないしはそれと共存）するためにどのような手法を用いているのか、という視点から、現在までの雑誌文化の歴史とその役割について学習し、グループワークを通じて紙の雑誌と電子媒体による雑誌、それぞれの特徴について検証し、電子媒体による新しい形態の雑誌のあり方も含めた今後の雑誌文化のありかたについて考察していく。実際に、編集や出版に携わっている特別講師を招いて、雑誌文化の現状について具体的に講義をしてもらう予定である。

内容

1. 雑誌とその周辺の文化に関する基礎講座
2. 雑誌文化の歴史（1）戦前編
3. 雑誌文化の歴史（2）戦後編
4. 雑誌文化の現状 特別講師による講義
5. 雑誌文化の研究（1）〔女性誌編〕
6. 雑誌文化の研究（2）〔女性誌編〕
7. 雑誌文化の研究（3）〔男性誌編〕
8. 雑誌文化の研究（4）〔男性誌編〕
9. 雑誌文化の研究（5）〔文化系編〕
10. 雑誌文化の研究（6）〔情報誌編〕
11. 雑誌文化の研究（7）〔文芸誌編〕
12. 雑誌文化の研究（8）〔電子メディア編〕
13. 雑誌文化の研究（9）比較と検討
14. 今後、雑誌文化はどのように展開していくのか？
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】授業に必要な資料や題材を集めておくこと

【事後学修】授業で配布されたプリントで復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

* 必要に応じて、授業内で紹介し、プリントなどを配布します。

科目名	マガジン制作ワークショップ（発展）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

科目の概要

学修目標（=到達目標）

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	情報倫理		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「情報倫理」は様々な角度から論じられているが、本講ではメディアからの情報を的確に受け取り、活用できる「情報の賢い受け手」になることを主眼に置く。

科目の概要

情報に関わるということは、「受け手」と「送り手」の2つの側面がある。今後、メディアや情報を専門に学ぶ上で、まずは情報の上手で賢い「受けて」になることが必要と思われる。新聞、テレビの情報(主としてニュース)がどのように収集、編集、発信されるかを学ぶとともに、自ら必要とする情報を的確に選択し、自分なりに解説を加えられる能力を磨く。そのために、毎回の授業では新聞記事のスクラップ作業等を通じて、情報の的確な選択と分析作業に取り組む。また、第一線にいる法律専門家(弁護士)を招き、情報が持つ正と負の側面を実際の事例を通じて学ぶ。

学修目標(=到達目標)

情報化時代に生きる学生、特にメディア・情報を学ぶ学生があふれる情報の中から、自ら必要とする情報を選び、活用する能力を授業を通して培う。今後、専門を学ぶ上で自立した情報の受け手になることを目標とする。

内容

1	授業ガイダンス 講義の進め方・新聞スクラップ作業の説明
2	講義=新聞情報の収集、編集、発信の過程 スクラップ作業
3	講義=テレビ情報の収集、編集、発信の過程 スクラップ作業
4	スクラップ作業と記事解説の発表
5	スクラップ作業と記事解説の発表
6	法律の専門家による事例解説 スクラップ作業
7	スクラップ作業と記事解説の発表
8	スクラップ作業と記事解説の発表
9	法律の専門家による事例解説 スクラップ作業
10	スクラップ作業と記事解説の発表
11	スクラップ作業と記事解説の発表
12	法律の専門家による事例解説 スクラップ作業
13	スクラップ作業と記事解説の発表
14	スクラップ作業と記事解説の発表
15	まとめ テーマを設定したスクラップ作業

評価

毎回のスクラップ内容60点+最終回の記事分析レポート40点=100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業では新聞を用意するが、事前に新聞を読むことを勧める(新聞は特に問わない)

【事後学修】授業で興味・関心を持った記事に関し、関連事項を検索し、理解を進める

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし

【推薦書】 授業時に指示

【参考図書】 授業時に指示

科目名	漫画論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

戦後日本の代表的なポピュラー文化として、マンガとアニメーションは相互に影響を与え合いながら発展してきました。その結果、マンガやアニメは、「ソフト・パワー」として現在日本の産業を支える重要なコンテンツになっています。日本ではどうして、こんなにもマンガとアニメが普及したのでしょうか？ その歴史的な文脈を探りながら、わたしたちの社会や文化、日常生活の中でマンガとアニメが果たしてきた役割を、文化社会学的な視点から考察します。そのために、広く社会学、歴史学、文化研究、メディア論、表象論、文学理論など、分析のために役立つ理論や方法論を毎週の講義を通じて紹介していきます。最終的には、受講者が実際にレポートなどを作成する際に使えるような知識を学んでもらうことが本講義の目的となります。また、製作現場が実際にはどのように展開されているかを学んでもらうために、実際にマンガやアニメーションの製作に関わっている特別講師の方を招いて特別講義をしてもらうことになっています。

内容

1. ポピュラー文化としてマンガとアニメをどう考察するか
2. 戦後マンガの歴史(1) 手塚治虫が開いた世界
3. 戦後マンガの歴史(2) 少年マンガの世界
4. 戦後マンガの歴史(3) 少女マンガの世界
5. マンガと表象(1) ジェンダーの視点から
6. マンガと表象(2) 恋愛の視点から
7. マンガとその製作現場 特別講師の授業
8. 戦後アニメの歴史(1) テレビアニメの世界
9. 戦後アニメの歴史(2) SFアニメの世界
10. 戦後アニメの歴史(3) アニメ映画の世界
11. アニメと表象(1) ハイブリディティの視点から
12. アニメと表象(2) テクノロジーの視点から
13. アニメとその製作現場 特別講師の授業
14. 「クール・ジャパン」現象を再検討する
15. まとめ

特別講師の講義日程によって、順番については多少の変更があります。

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】教科書の指定された場所を読んでおくこと

【事後学修】授業で配布された資料などをノートにまとめておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

津堅信之・アニメーション学入門・平凡社新書

推薦書

大塚英志 + ササキバラゴウ・教養としての まんが・アニメ

米沢嘉博・戦後少女マンガ史 ・ちくま文庫

その他、必要に応じて、授業の中でテキストを指示し、プリントを配布します。

科目名	国際マスコミュニケーション論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目分類 マスメディアコースメディア理論群選択必修

概要: 「国際マスコミュニケーション」とは、マス・メディアを中心にした国を越えた社会の間のコミュニケーションをいいます。例えば、高校のときに韓国に旅行にいかれた方は、向こうでNHKを見ることが出来るのに驚いたのではないのでしょうか。また、今や日本のマンガやアニメは世界中で人気があるのはよくご存じだと思います。グローバル化の進展に伴い、こうした国際マスコミュニケーションは質・量共に増大しつづけており、それが国家および社会にとってどのような影響を与えているのかを考えるのが本講義の目的です。「国境を越えるマス・コミュニケーションのインパクト」が講義のサブタイトルです。

取り扱うテーマは、前半は、「国際マスコミュニケーション」を議論していく上で必要な、基本的な事象や概念について、具体的な事例を交えながら解説していきます。取り扱う主な事象・概念は、文化帝国主義、情報主権、国境を越えるテレビ、集团的帰属意識などです。後半は、ヨーロッパ・北米などにおける具体的な「国際マスコミュニケーション」の状況を紹介しながら、前半で解説した概念の理解を深めていきます。講義の締めくくりでは、現在の日本を含めたアジアを取り巻く「国際マスコミュニケーション」の状況を考えてみたいと思っています。

目標: 現代における国際マスコミュニケーションの意義と問題点を理解する。

内容	
1	イントロダクション
2	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
3	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
4	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
5	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
6	国境を越えるマスコミュニケーション(TV)は何を伝えるのか
7	中間まとめ
8	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
9	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
10	世界情報秩序をめぐる議論と情報主権・文化帝国主義
11	北アメリカにおける国際マスコミュニケーション
12	ヨーロッパにおける国際マスコミュニケーション
13	日韓間の国際マスコミュニケーション
14	アジアにおける国際マスコミュニケーション
15	まとめ

評価

中間テスト(40%)および期末レポート(60%)

授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】ジョン・トムリンソン『文化帝国主義』青土社 361.6/T

田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』龍星出版、1996年

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

科目名	グローバルジャーナリズム		
担当教員名	鈴木 弘貴、込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間生活学部の共通科目「グローバル化と社会」との同時開講科目である。

科目の概要

「グローバル化」は、社会のあらゆる面において、現に進行している現象であるが、本講義ではその中でも特に、経済とメディア（ニュース）の二つの側面にポイントを絞って授業を進めていく。「経済面」は「グローバル化」と呼ばれる現象が最も早く現われ、また、その他の分野の「グローバル化」にも大きな影響を及ぼしている分野である。具体的には、自由貿易協定、多国籍企業、金融の国際化などに表れている。このような具体例を挙げながら、グローバル化がもたらす功罪について学んでいくことにする。「メディア（ニュース）」の「グローバル化」、すなわち「グローバル・ジャーナリズム」は、経済のみならず、文化・社会のグローバル化の動きと密接にかかわる現象である。このため、「グローバル・ジャーナリズム」の現状について学び、考えることは、「グローバル化と社会」を総合的にとらえる視点を獲得することになる。具体的には、CNN国際ニュースやBBCワールドニュースなどの事例から学んでいく。

学修目標：1. 「グローバル化」の意味と、それが現代社会でなぜ進行しているのか、そしてそのインパクトは何かを理解する。2. 「経済におけるグローバル化」を巡る諸問題を理解する。3. 「社会におけるグローバル化」の一例としての「グローバル・ジャーナリズム」を巡る諸問題を理解する。

内容	
1	グローバル化とは何か
2	グローバル化がもたらす経済への影響
3	インターネットとグローバル
4	グローバルな経済危機
5	グローバルと通貨危機
6	経済危機と経済政策
7	グローバル危機と国際協調
8	中間まとめ
9	ジャーナリズムと市民社会
10	グローバルなニュースの収集
11	グローバルなニュースの伝達
12	グローバルなニュースの選択と解釈
13	グローバル・ジャーナリズムの現状
14	グローバル・ジャーナリズムの問題点と可能性
15	まとめ

評価

中間レポートあるいはテスト（50％）、期末レポートあるいはテスト（50％）

授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（世界思想社）

科目名	放送ジャーナリズム		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格・・・放送の役割や課題について学び、テレビなどの放送メディアとのかかわり方を考える。

科目の概要・・・私たちはマスメディアによって世の中の情報を入手している。一方インターネットを活用することで、私たち一人ひとりが情報発信者として世の中の動きに参加できる時代になっている。テレビ放送が始まって60年。放送を取り巻く環境の変化や放送の歴史を学び、放送現場で働く人々の姿を知ること、私たちは放送とどのようにかかわれば良いのかを考えていく。外部の講師を招く可能性もあるので、特に熱心な学生の参加を希望する。

学修目標(=到達目標)・・・自分の判断で放送やインターネットを上手に利用し情報社会と関わっていく姿勢を身につける。

内容	
1	放送とはなにか
2	放送の歴史
3	放送は何を伝えてきたか
4	視聴者は放送とどう関わってきたのか
5	放送の現場～アナウンサーの仕事・役割
6	放送の現場～番組制作の仕事と内容
7	放送の現場～報道と記者の仕事
8	放送技術の歴史～放送博物館
9	メディア・リテラシー
10	現代の放送番組の課題・問題点について議論する
11	放送とインターネットについて
12	放送の世界で活躍する女性たち
13	放送の世界で活躍する女性たち
14	放送の未来と私たちの暮らし
15	まとめ

評価

期末試験(40%)日頃の授業への取り組み(20%)ミニレポート(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】プリントなど資料を読む。指定された番組を視聴して疑問点などをまとめる。

【事後学修】ミニレポートなどを書く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【参考図書】『データブック世界の放送2013』NHK放送文化研究所編 NHK出版

『改訂版メディア文化論』吉見俊哉著 有斐閣アルマ

『テレビ視聴の50年』NHK放送文化研究所編 NHK出版

『放送メディア研究』日本放送協会放送文化研究所

『叢書現代のメディアとジャーナリズム1～6』ミネルヴァ書房

『放送ウーマンのいま』日本女性放送者懇談会編 ドメス出版

科目名	活字ジャーナリズム		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (= 到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	エンターテイメント映像論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、グローバル化が進むにつれて世界中で視聴されるようになったハリウッド映画のいくつかの作品を視聴し、その面白さの根源がどこにあるのか、また世界中で見られる映像としてそこで描かれている事物がどのような意味を持ちうるのか、といった点についてグループワークを中心に分析していく。授業で扱うのは、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』、『スター・ウォーズ』、『タイタニック』、『ターミネーター2』など、誰もが一度は見たことがある(だろう)作品である。授業内では、実際に映画を視聴し、映画理論に関する論文を輪読し、「ハリウッド脚本術」と呼ばれるその独特の脚本構成の分析や映像表現技術の検討を通じて、エンターテイメント性とはなにか、またその概念が孕む問題点について考えていく。

内容

1. エンターテイメントメディアとは何か?
2. エンターテイメントメディアの構造(1)ストーリーと脚本
3. エンターテイメントメディアの構造(2)キャラクター
4. エンターテイメントメディアの構造(3)フレームと編集
5. エンターテイメントメディアの構造(4)イデオロギー
6. エンターテイメントメディアの分析(1)
7. エンターテイメントメディアの分析(2)
8. エンターテイメントメディアの分析(3)
9. エンターテイメントメディアの分析(4)
10. エンターテイメントメディアの分析(5)
11. エンターテイメントメディアの分析(6)
12. エンターテイメントメディアと映画理論(1)
13. エンターテイメントメディアと映画理論(2)
14. エンターテイメントメディアと映画理論(3)
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】配布された文献を読んでおくこと

【事後学修】授業の内容を踏まえて文献を参照しながらワーキングペーパーを作成すること

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

藤井仁子 『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院

ルイス・ジアネッティ 『映画技法のリテラシー 1』フィルムアート社

ルイス・ジアネッティ 『映画技法のリテラシー 2』フィルムアート社

純丘曜彰 『エンターテインメント映画の文法：ヒットを約束する脚本からカメラワークまで』フィルムアート社

ニール・D.ヒックス 『ハリウッド脚本術：プロになるためのワークショップ101』フィルムアート社

*必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	サイバージャーナリズム		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、コミュニケーション学科専門選択科目である。高度情報社会といわれる現代社会では、インターネットに関する正しい知識と社会における役割を理解することが重要とされており、それに対応した科目である。

科目の概要

大きな柱として、次の2つの内容で構成する。

- ・インターネットの概要と仕組みの理解

インターネットに関する技術的な基本となる知識・理解を中心に構成する。インターネット検定 .com Master BASIC 相当の内容とする。

- ・インターネットが社会に与える影響

インターネットを取り巻く社会環境の変化や新しい技術が世の中に展開していく上での、社会的諸問題についても議論及び考察を行い、我々が認識すべき課題について明らかにする。

学修目標

- ・インターネットの概要と仕組み、利活用方法について理解する。
- ・インターネットのコンテンツやサービスの正しい知識を身につけ、社会との関わりを考察できる。
- ・高度情報社会での変容に的確に対応できる能力を身につける。

内容

1	オリエンテーション
2	インターネットの概要と歴史
3	インターネットの接続
4	情報機器の活用
5	インターネットの活用 1
6	インターネットの活用 2
7	インターネット社会の安全性・モラル
8	インターネットのセキュリティ
9	インターネット関連のサービス利用と関係の法律
10	情報行動の意味と捉え方/情報行動と情報社会とのつながり
11	インターネットや携帯電話の利用と効果
12	SNSとオンラインコミュニティーの生成
13	インターネットに見る事件
14	インターネット社会と流動性/情報倫理の根本
15	まとめ

評価

レポート50%、試験50%により評価をおこない、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に提供するWeb教材での予習

【事後学修】事後に実施する小テスト

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定する。

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション(要請承諾・説得)
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

評価

授業内の小課題20点、期末テスト80点、の計100点満点により評価を行う。

授業外学習

【事前予習】学習予定である教科書の該当章を読み、概要を理解するように努める

【事後学修】学習内容を整理し直すとともに、日常生活での身近な行動に当てはめてみる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	マス・コミュニケーションの社会心理学		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この講義は、私たちのコミュニケーションを操る脳についてのものです。私たちが誰かに自分の気持ちを伝えるとき、相手に「伝える内容」ばかりを考えますが、本当に何が伝わっているのか不明な部分が多いのです。

科目の概要

扱うのは、(1) 言葉に込められた私たちの感情の情報、(2) 発話方法が伝える感情、(3) さらにには私たちの顔に現れた感情、これらの背景を分析していきます。

学修目標 (=到達目標)

私たちが、何かを想像し、行動し、結果を得るとき、いったい脳の中で何が起きているのでしょうか。言語だけではなく、視覚、聴覚、触覚など様々な角度から脳をとらえて行こうと思う。なるべく平易な授業を心がけますが、しっかり聴いて下さい

内容

前半は脳とコミュニケーションの基本的な知識、後半はその応用例を考察します。

1	脳にとってコミュニケーションとは何か 導入
2	脳はどう進化し、成長するか
3	脳にとって視覚と聴覚とはに何か
4	脳と味覚、嗅覚、触覚とは何か
5	脳の可逆性と成長
6	脳の中で感情はどう生まれるか
7	脳に言語はどう組み込まれるか
8	脳はどこまで騙せるか(微表情の分析)
9	脳と性格: 人によって判断が違うのはなぜか。
10	脳と世界: 広告や記事
11	脳に男女の脳の差はあるのか
12	知能と記憶と先入観
13	「私」はどこにいるのか。
14	脳とコミュニケーション
15	まとめ

評価

授業への取り組み、リアクションペーパー(40%)と課題レポート(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指定された頁を読んで出席。30分。

【事後学修】理解を深めるために再読。20分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】森田勝之 『0歳から育てる脳と心』創元社

【推薦書】

【参考図書】

科目名	メディア文化研究		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、「メディア」というものが社会においてどのような文化的基盤として機能しているのかを考えていく。書籍、ラジオ、テレビ、インターネットといったさまざまな媒体の形をとりながら、メディアは私たちの社会において「文化」、「コミュニケーション」、「ネットワーク」、「コミュニティ」などのさまざまな機能を果たしている。本講義では、伊藤守編『よくわかるメディア・スタディーズ』を教科書としながら、「メディア文化」について広く学んでいく。受講者それぞれが、教科書のなかから関心のある項目を選んで期末レポートを作成する。

内容

1. メディア文化論とはなにか？
2. メディアの物質性と歴史性
3. 文字メディアの誕生
4. 音声メディアの誕生
5. 映像メディアの誕生
6. インターネットとウェブ
7. メディア社会の構造
8. メディア産業とその特徴
9. メディア文化のグローバル化
10. メディアの表象(1) 人種
11. メディアの表象(2) ジェンダー
12. メディアの表象(3) 若者
13. メディア文化と都市空間
14. メディアの政治経済学
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

授業外学習

- 【事前予習】教科書の指定された範囲を読んでおくこと
- 【事後学修】授業の内容を踏まえて具体的な事例について考察してみる

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】伊藤守編『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房
- その他、必要な教材については授業内で適宜、説明します。

科目名	メディア広告論		
担当教員名	木村 政司		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

企業イメージ、ブランドイメージ、メディア戦略を、益々変容する広告表現とその手法に学ぶことで、これからの人や社会に対してどんな価値を提供でき、影響を与えることができるのかを学ぶ。また、ここでは特にデザインのチカラが発想と思考、ライフコンセプトを他領域の知とセンスよく融合することによって提案できる可能性を掴む。

科目の概要

今までの常識が覆される新しい時代の広告の役割、メディアの種類、コミュニケーションの基本戦略を理解し、広告表現とデザインの具体的な手法を視覚的に体験する。

学修目標(= 到達目標)

毎回配布される画像資料や解説シートを確認しながら講義を進行し、ノートを取り、リテラシーを深める。出題された課題を次の講義までに仕上げ、学習効果を確認していく。

1. 自らを知るためのデザインを体験する。
2. 広告の基礎と役割を理解する。
3. 表現手法としてのコミュニケーションデザインを理解する。
4. 知的、グッドセンス、お洒落をデザインすることで影響を与える。
5. 自分自身を戦略的にデザインする。

内容

- 01 セルフプレゼンテーション 自分の未来をデザインする
- 02 広告にとってデザインは如何に機能しているのか? 私の好きな広告デザイン
- 03 日本の広告デザインから学ぶ 広告を分類する
- 04 ヨーロッパの広告デザインから学ぶ 広告表現に基準と常識は存在しない!
- 05 ヨーロッパの広告デザインから学ぶ いい広告、わるい広告、つながる広告
- 06 ヨーロッパの広告デザインから学ぶ デザインの発想とメディアの役割
- 07 アメリカの広告デザインから学ぶ ヒットをつくるためのデザイン戦略
- 08 アメリカの広告デザインから学ぶ 言葉のチカラを掴む
- 09 ブランディング ブランドそのものの広告力から文化を創造する
- 10 テレビCMに見る日本とアメリカの違い スーパーボウルの高視聴率
- 11 日本をデザインする 企画力を鍛える: 企画書をプレゼンテーションする
- 12 キャッチコピーとボディ コピー、写真を撮る
- 13 デザインが広告の未来をどう変えるのか?
- 14 クールなジャパンのプレゼンテーション マイ・アドの鑑賞・批評会
- 15 まとめ

評価

各回の課題レポート（50%）広告表現課題提出と質（40%）レポート（10%）により評価し、60点以上を合格とする。また、三分の二以上の出席をすることで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】

出題された課題の調査・資料収集を行ない毎回提出する。

【事後学修】

講評からリメイクまたは新しいアイデアの蓄積を行ない、最終まとめ課題に応用する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

使用しない（配布するプリントのみ使用）

【推薦書】

【参考図書】

科目名	メディア産業論		
担当教員名	大西 正行、岩本 昭治		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディア4媒体と新領域メディアに至るメディアビジネスを概観し、コンテンツの重要性を押さえながら、今後を展望する。「メディア産業論」は、各メディア企業の良質のコンテンツ発信を支える「広告」の役割を抜きにしては、考えられない。各メディアの広告ビジネスとはいかなるものかを解明する。

科目の概要

新聞、テレビ、雑誌、ラジオという既存メディアの厳しいビジネス環境とともに、インターネット、電子書籍、携帯電話等の展開を学ぶ。主要媒体の概観ごとに、大手広告会社の中核をになった講師による「広告ビジネスのアプローチ」を設け、メディア産業を多面的にとらえる。

学修の目標

- 1 日々、現代人が水のように接するメディアのビジネス構造を理解し、ビジネス面からメディアリテラシーを高める。
- 2 メディアビジネスの現場で働く人の現実を的確に把握し、メディアへの就職を志向する学生のモチベーションをアップさせる。

内容

1	ガイダンス(ネット社会における新聞の明日から説き起こす)
2	メディアの変貌の中のロマンとソロバン
3	広告会社とは何か(広告ビジネス概観)
4	全国紙の今
5	通信社と地方紙の今
6	広告から新聞業界を見る
7	雑誌・出版界と編集者の今
8	本ができるまでと本の出版、電子書籍と紙の本
9	広告から出版業界を見る
10	テレビ概論
11	テレビの番組制作と視聴率
12	広告からテレビ業界を見る
13	ニューメディアの時代と広告
14	ラジオ概説
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	映像女性論（基礎）		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本講義では、イギリスおよびその関連諸地域で製作されたいくつかの映画を視聴し、映像を通じた文化の表現とその広がりについて分析していく。だれもが見て楽しむことのできる映画には、実は、社会問題や文化と政治に関係するトピックスがたくさん隠されている。特に、イギリスとその関連諸地域で製作された映画には、「ジェンダー/セクシュアリティ」、「ファッションと音楽」、「階級と教育」、「帝国主義と人種、ナショナリズム」、「食文化とライフスタイル」、などの様々な論点を読み取ることができる。個々のテーマが映像の中でどのように表現され、視聴する私たちにどのような知識や争点を与えてくれるか、という点に着目しながら、具体的に映像を分析・理解していく。

内容

1. イギリス映画の歴史とその特徴
2. 階級と教育（1）
3. 階級と教育（2）
4. ファッションと音楽（1）
5. ファッションと音楽（2）
6. ジェンダー/セクシュアリティ（1）
7. ジェンダー/セクシュアリティ（2）
8. ジェンダー/セクシュアリティ（3）
9. 食文化とライフスタイル（1）
10. 食文化とライフスタイル（2）
11. 帝国主義と人種、ナショナリズム（1）
12. 帝国主義と人種、ナショナリズム（2）
13. 帝国主義と人種、ナショナリズム（3）
14. 映像文化とイデオロギー
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】配布された文献を読んでくること

【事後学修】視聴した映像と文献をもとにワーキングペーパーを作成すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子 『映画でわかるイギリス文化入門』松柏社

狩野良規 『スクリーンの中に英国が見える』 国書刊行会

吉田徹夫、村里好俊、高瀬文広 『映画で楽しむイギリスの歴史』 金星堂

* 必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	民俗歌謡の世界		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	英米文学史		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

英米の歴史を背景に両国の文学の流れを概観し、それぞれの時代の特徴と文学の関わりを、小説を中心にしながらいくつかの項目に絞って概説します。そして文学作品を単なる知識として歴史の中に位置付けるのではなく、各時代の潮流の中で作品が人間の生の営みをどのような形で反映し、また新しい時代をどのように切り拓いていったのかを探ってみます。とくに小説は結果が重要なのではなく、結末に至るまでの過程を味読しながら思索すべきものです。その意味からもこの講義が聞きっぱなしに終わらないで、実際に作品に当たってその面白さを直に味わいながら、さまざまな人間像についての理解を深める契機になることを望みます。そのために原則として邦訳のある作品で話を進め、また名場面をビデオで鑑賞したりして、作品を身近なものにします。

内容

《英文学》

- (1) 英米の歴史の流れおよび英語の特徴
- (2) 欽定英訳聖書と英文学
- (3) エリザベス朝演劇とシェイクスピア(人間の発見)
- (4) 18世紀・・・小説の始まり(写実と諷刺の精神)
- (5) ゴシックロマンスとジェーン・オースティン(非日常と日常)
- (6) ローマン派詩人(感情の解放)
- (7) ヴィクトリア朝の小説(ディケンズとブロンテ姉妹)
- (8) イギリス児童文学(ルイス・キャロルとベアトリックス・ポター)
- (9) 世紀末文学(審美主義)
- (10) 20世紀「意識の流れ」の小説(ジョイスとウルフ)
- (11) 生命の哲学(ロレンスとフォースター)

《米文学》

- (12) 19世紀のピューリタニズムと小説(ホーソンとメルヴィル)
- (13) 20世紀初頭の自然主義文学(アメリカの悲劇)
- (14) 20年代の「失われた世代」(虚無と退廃の戦後文学)
- (15) 30年代の社会主義文学とその後(現代文明批判)

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらいます。

【事後学修】授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来るようにします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回、プリントを配布します。

参考書については授業時に適宜紹介します。

科目名	イギリス文学		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)/マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

近代英米小説に見る女性像の変遷についての理解を深め、それぞれの時代に新しいタイプの人間像が誕生する経緯を捉えながら、その今日的な意味を検討する。

19、20世紀の英米小説に登場するヒロインだけでなく重要な役割を演ずる脇役の女性も取りあげて、女性としてのさまざまな生き様、有りようを、時代背景と照らし合わせながら、時代を牽引する新しい生き方のできる女性、逆に旧弊に囚われた遅れた生き方しかできない女性に焦点をしばって、具体的な場面設定の中で捉える。その結果として人間の多様な生き様を実感しながら、今日に生きる英知をさぐる。

内容

毎週、19,20世紀の英米小説を一作ずつ取り上げ、ストーリーの流れの中で女性の生き方を検討する。象徴的ないしは劇的な場面を映像で印象付けるようにする。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: ジェーン・オースティン『高慢と偏見』
- 第3回: シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』
- 第4回: ウィリアム・メイクピース・サッカレー『虚栄の市』
- 第5回: チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コバフィールド』
- 第6回: ナサニエル・ホーソーン『緋文字』
- 第7回: ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』
- 第8回: ヘンリー・ジェームズ『ある婦人の肖像』
- 第9回: トマス・ハーディ『テス』
- 第10回: E・M・フォスター『ハワーズ・エンド』
- 第11回: D・H・ロレンス『息子と恋人』
- 第12回: D・H・ロレンス『チャタレー夫人の恋人』
- 第13回: ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 第14回: マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』
- 第15回: マーガレット・ドラブル『礮臼』

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらう。

【事後学修】授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

毎回、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

科目名	感性文化表現 A (手話)		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。
聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。
具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指文字などの基礎を理解します。

学修目標 (=到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。
あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字(ア~サ行)
5	名前に関する表現
6	指文字(タ~ハ行)
7	趣味に関する表現
8	指文字(マ~ワ行)
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】 授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】 ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	感性文化表現 A (手話)		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指文字などの基礎を理解します。

学修目標 (=到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字(ア~サ行)
5	名前に関する表現
6	指文字(タ~ハ行)
7	趣味に関する表現
8	指文字(マ~ワ行)
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】 授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】 ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	演劇論A（基礎）		
担当教員名	藤澤 茜		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、私たちのルーツを探ることにもなります。この授業では、能や狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃などの伝統芸能を取り上げ、現代の演劇にどう継承されているかを明らかにし、外国の演劇との比較により日本の演劇の独自性についても検証します。

特に注目するのは歌舞伎です。現代のメディアと同様に社会現象を敏感に反映し、小説や浮世絵、落語等に影響を与えた歌舞伎の検証は、大衆演劇の意義や鑑賞者が演劇に求めた要素の解明の手がかりになります。また神の祭りを起源とするため、信仰と演劇という不可分の問題も検討できると考えます。

科目の概要

能や人形浄瑠璃、海外の演劇との比較を交え歌舞伎の本質を明らかにします。宝塚、ミュージカル、現代の舞台芸術、アニメーションも取り上げエンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

学修目標（＝到達目標）

- (1)日本の伝統芸能や演劇、世界の演劇についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2)絵画資料を通じて歌舞伎の本質を探ります。浮世絵を持参する機会を設け絵画の造詣も深めます。
- (3)ビデオ観賞を通じて役者の演技、演出、舞台装置等の細かな部分に関しても理解を深めます。

内容	
1	ガイダンス・日本の伝統芸能の流れ
2	能・狂言の歴史と魅力
3	能から歌舞伎へ 「石橋」と「連獅子」
4	歌舞伎の舞台構造を知る～絵画資料による検証・現代のコクーン歌舞伎まで～
5	市川團十郎と江戸の信仰
6	歌舞伎と人形浄瑠璃 「義経千本桜」の狐忠信
7	歌舞伎と話芸 「仮名手本忠臣蔵」と落語
8	歌舞伎と広告 「外郎売」など
9	歌舞伎の海外公演 パリオペラ座公演・平成中村座ニューヨーク公演
10	歌舞伎と海外の演劇（1）京劇（中国）・パンソリ（韓国）等アジアの芸能
11	歌舞伎と海外の演劇（2）シェイクスピアと蜷川幸雄
12	海外の演劇 「ロミオとジュリエット」・ミュージカル「ウエストサイド物語」
13	現代の演劇 宝塚「ベルサイユのばら」に見る華麗な舞台
14	現代のアニメーション 「千と千尋の神隠し」と日本文化
15	まとめ 伝統芸能の舞台と現代舞台芸術の比較

評価

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】次の授業で取り上げる演劇や具体的な演目について、辞書等で各自調べておくこと。特に歌舞伎の演目については、授業内で詳細にあらすじを述べる時間がとれないこともあるので、必ず事前に予習しておくこと。予習の際に有用な文献については、授業中に指示します。

【事後学修】授業内容の不明な点は、次回の授業で質問するかコメント用紙に質問を記載して下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】開講後に指示。授業時には毎回プリントを配布します。

【参考図書】渡辺保著『江戸演劇史（上下）』講談社、2009年

科目名	演劇論B（発展）		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、マスメディアコース表現文化群のうち、選択必修科目である。本科目では、英語圏を中心とした演劇および舞台芸術について、歴史的背景や社会的文脈に位置付けつつ概観する。

ジャンル、規模において多様にひろがる舞台芸術の中から、現代社会の諸問題を読み解く視点を与えてくれる作家、作品を取り上げる。

学修目標は以下の3点とする。

1. 舞台芸術という媒体の特徴を理解する。
2. 授業で取り上げた演劇（舞台芸術）の概要を、歴史的・文化的諸条件の中で理解する。
3. 様々な資料から、現代社会の中での芸術のあり方を多角的に考察する。

内容	
1	Introduction
2	戯曲（William Shakespeare 1）
3	戯曲（William Shakespeare 2）
4	戯曲（William Shakespeare 3）
5	戯曲（アメリカ演劇 1）
6	戯曲（アメリカ演劇 2）
7	ミュージカル 1
8	ミュージカル 2
9	オペラ 1
10	オペラ 2
11	サーカス 1
12	サーカス 2
13	バレエとモダンダンス 1
14	バレエとモダンダンス 2
15	まとめ

評価

期末テスト（60％）、授業態度（10％）、提出物（30％）で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】指定された作品・作家について調べる

【事後学修】授業の考察をまとめておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	日本語学（基礎）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

科目の概要

母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に

言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考える。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

学修目標（＝到達目標）

単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 言語とは何？
- 第3回 日本語っていつからはじまったの？
- 第4回 言語とコミュニケーション
- 第5回 音声言語としての日本語（音声記号を書けるようにしよう！）
- 第6回 日本語音声の特徴
- 第7回 日本語方言の音声
- 第8回 音響分析と日本語
- 第9回 アクセントとイントネーション
- 第10回 方言とアクセント
- 第11回 文字の歴史
- 第12回 変体仮名を読む（古今集の恋の歌を読む）
- 第13回 表記のゆれと変化
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより評価します。日常出席まとめ感想メール・・・1～7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、ま

まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント
(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D
<60 C <70 B <80 A <90 S (4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】1週間の日本語やコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「
良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	日本語学（発展）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に、言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。

みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけ作りを目指します。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 流行語・ことばの変化
- 第3回 正しいことば・間違ったことば
- 第4回 語彙1
- 第5回 語彙2
- 第6回 敬語・待遇表現
- 第7回 ことばのスタイル
- 第8回 ことばを調べる1
- 第9回 ことばを調べる2
- 第10回 ことばを調べる3
- 第11回 ワークセッション1
- 第12回 ワークセッション2
- 第13回 外国語と日本語
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより評価します。日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント

(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D
<60 C <70 B <80 A <90 S (4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】1週間の日本語やコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「
良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	ことばの心的メカニズム A (言語学 基礎)		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「ことばの心的メカニズムC」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべてを履修すること。

科目の概要

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学ぶ。

学修目標(=到達目標)

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か?
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得(英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得(英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得(形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

評価

期末試験70%, 小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います)30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。また、深く学びたいと思った点については推薦書・参考文献を読むこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムB（音声学 基礎）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

コミュニケーション学科の専門科目で選択科目。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方のほか、英語の教職課程を履修している学生にも履修をお勧めします。なお、同じくコミュニケーション選択科目の「ことばの心的メカニズムD（音声学発展）」では、この科目よりも時間の長い発音（音連続・リズム・イントネーション）に注目して応用練習をします。

母語の個々の音（母音・子音・半母音）の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語の発音を日本語と比較することにより個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

この教科書の30のユニットは6つの章に分かれていますが、第2, 3章の子音（しいん）と母音（ぼいん）をいねいに練習していきます。音節・単語・文章の部分も重要ですが、要点を押さえて速く進みます。

1	1.音声とつづり -- 2.音声を生成する -- 3.子音と母音
2	4.ゴールを決める -- 5.閉鎖音と鼻音
3	6.摩擦音
4	7.破擦音と接近音 -- 8.子音のまとめ -- 9.音声学の効用
5	10.母音
6	11.前舌母音と後舌母音
7	12.二重母音と中舌母音
8	13.音声記号
9	14.音節 -- 15.子音連結
10	16.音節と言葉遊び -- 17.英語の音のパターン -- 18.リスニング練習
11	19.単語の強勢 -- 20.弱形 -- 21.音素と異音
12	22.音韻規則 -- 23.発音練習の諸方法 -- 24.英語のリズム
13	25.文の強勢 -- 26.連結音 -- 27.同化
14	28.イントネーション(抑揚) -- 29.音調のパターン -- 30.自己意識と発音
15	【まとめ】

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

(1) まとめの成果： 60%

(2) 平常点： 40% (小テスト(適宜)、予習、実技録音課題提出)

授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、教科書の対訳を参考に説明英文を読み、付属音声の発音をまねてみてください。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで付属音声を何度もきいてまねてください。人によりですが毎週30分は必要と思います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】米坂スザンヌ/田中洋也 著 『Discovering English Sounds -- Phonetics Made Easy (発音指導と音声学の融合)』 センテージ ラーニング.

【推薦書】竹林滋/清水あつ子/斎藤弘子 著 『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店.

科目名	ことばの心的メカニズムC (言語学 発展)		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

言語学の関連分野については「ことばの心的メカニズムA」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論(英語の単語の構造)、統語論(英語の文の構造)、意味論(意味の構造)を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたい。

学修目標(=到達目標)

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、(ii)言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の内部構造、形態素
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成規則(偶発的な語形成規則)
6	形態論(5): 語形成規則(少し規則的な語形成規則)
7	形態論(6): 語形成規則(規則的な語形成規則)
8	統語論(1): 統語論のめざすもの
9	統語論(2): 句・文の内部構造
10	統語論(3): 句構造規則
11	統語論(4): 変形規則
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

評価

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムD（音声学 発展）		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語）/ 中学校教諭一種免許状（英語）/ マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

コミュニケーション学科マスメディアコースの専門科目の選択科目。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方のほか、英語の教職課程を履修している学生にも履修をお勧めします。なお、同じく選択科目の「ことばの心的メカニズムB（音声学基礎）」では、この科目よりも時間の短い個々の音（母音・子音・半母音）を詳しくみます。

英会話や英文朗読をするには、個々の音（母音・子音・半母音）の発音にある程度自信が必要ですが、英語の音連続から文の発音へと体系的にリズムとイントネーションを学んで効率よく練習することが有効です。英語のリズム・イントネーションは日本語よりも変化幅が大きいため、表情豊かに朗読する表現の幅が広がります。

ネイティブスピーカーに理解してもらいやすい流暢な発話を目指します。いきなり勘に頼ってリズムをつけようと努力よりも、急がば回れの言葉通り、リズム・イントネーションの特徴を頭で理解したうえで練習した方が、効率よく目標に近づくことができます。

内容

冠詞・人称代名詞などの機能語を弱く速く自然に発音して、きいて分かり易い発音を目指します。教科書リピーティングと音読を中心にして進みます。全22のレッスンを、2週間あたり3レッスン強の進捗で練習していき、最終週にはまとめを行います。

- Lesson 1 冠詞(Articles) a, an, the, some, any
- Lesson 2 代名詞(Pronouns) I, my, me, you, your
- Lesson 3 連結(Linking) 子音+母音
- Lesson 4 連結(Linking) [r]を含む母音+母音, 子音+[j]
- Lesson 5 代名詞(Pronouns) she, her, he, his, him
- Lesson 6 代名詞(Pronouns) it, its, they, their, them, we, our, us
- Lesson 7 be動詞(BE-verbs) be, am, is, are, was, were
- Lesson 8 助動詞(Auxiliary Verbs) do, does, did
- Lesson 9 助動詞(Auxiliary Verbs)
- Lesson 10 脱落(Elision) 同じ子音の連続
- Lesson 11 脱落(Elision) 閉鎖音+子音
- Lesson 12 助動詞(Auxiliary Verbs) have, has, had
- Lesson 13 同化(Assimilation) 相互同化
- Lesson 14 同化(Assimilation) 無声化
- Lesson 15 前置詞(Prepositions) of, in, on, at, to, for, from, than, with
- Lesson 16 同化(Assimilation) nの同化
- Lesson 17 接続詞(Conjunctions) and, or, but, as, if
- Lesson 18 同化+脱落(Assimilation and Elision) tとdの同化と脱落
- Lesson 19 when, where, who, which, what, why, whose
- Lesson 20 this, that, these, those

Lesson 21 短縮形(Contracted Forms)のwill, have, has

Lesson 22 短縮形(Contracted Forms)のwould, have, had

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

- (1) まとめの成果： 60%
- (2) 平常点： 40% (小テスト(適宜)、予習、実技録音課題提出)

授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、教科書の対訳を参考に説明英文を読み、付属音声の発音をまねてみてください。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで付属音声を何度もきいてまねてください。人によりませんが毎週30分は必要と思います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】今井/米田/平岩 著『英語リダクションをリスニング中心に(Sounds Great: Listening Practice on English Reduced Forms)』英宝社.

【推薦書】

Judy B. Gilbert著、_Clear Speech Student's Book with Audio CD: Pronunciation and Listening Comprehension in American English [Student Edition]3版 (2004)、Cambridge University Press . ISBN-13: 978-0521543545

科目名	ダンスパフォーマンス（基礎）		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

コミュニケーション学科の科目である。ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス（地域の人々が健康のために行っているダンス）を広め、指導にあたるインストラクター（ダンスムーブメント（ダンス的運動）インストラクターライセンスの受験資格）を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

この授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解するとともに、ジャンルにこだわらない実践を通してリズム感や体力向上を目指し、身体を感じ、心から楽しみ、実感を持って自分の感性につなげていくことをねらいとする。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を実感する。
2. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
3. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

導入（1:本日の話題 2:グルーピング 3:グループワーク）

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション（様々なステップ）

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2 週目～ 5 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 6～ 9 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 10～ 13 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら 動きを大きく、みている人に伝えられるように

5) 14～ 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や鑑賞能力を高める。

評価

平常点（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、

総合的に評価。

授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	ダンスパフォーマンス（発展）		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス（地域の人々が健康のために行っているダンス）を広め、指導にあたるインストラクター（ダンスムーブメント（ダンス的運動）インストラクターライセンスの受験資格）を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション（様々なステップ） ここで、工夫のトレーニングも行う。

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2? 3 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 4? 6 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 7? 9 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

5) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

創作に挑戦

6) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や評価・鑑賞能力を高める。

評価

評価 平常点（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。忘れものは減点とする。

見学者は授業内容等（指定用紙）を記入し、毎時提出する。

授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	教育とメディアA（基礎）		
担当教員名	安達 一寿、加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、コミュニケーション学科専門選択科目である。教育分野とメディアに関わる内容となるので、教職履修者、あるいは教育分野でのメディア活用に興味関心のある学生に向いている。

科目の概要

学校教育・生涯学習などの教育分野では、新しいメディア活用に関する研究やメディアリテラシー育成のための教育が実践されている。例えば、インターネットの活用、デジタル教科書、電子黒板、e-ラーニング、クラウドサービスの活用などがある。またICTの活用に伴い、メディアリテラシー教育なども重要な課題である。本科目では、教育メディアの歴史からはじめ、情報機器端末、アプリケーション、メディアリテラシー教育、最新のICTを利用した教育環境をテーマとして取り上げる。

また、ICTを活用した簡単な教材作成の方法と開発を行い、教育とメディアへの理解を深める。

学修目標

- ・教育とメディアの関係やそれぞれの特徴が理解できる。
- ・メディアや情報に関わる教育の現状について考察を深めることができる。
- ・教材の開発を通して、ICTを活用した教育の理解を深める。

内容

1	オリエンテーション
2	メディアとメッセージ
3	教育モデルとメディア
4	教育とメディアの歴史と関係
5	子どもと情報メディア（1）
6	子どもと情報メディア（2）
7	情報教育とメディアリテラシ（1）
8	情報教育とメディアリテラシ（2）
9	メディアを活用した新しい学習（1）
10	メディアを活用した新しい学習（2）
11	メディアを活用した教材の設計
12	メディアを活用した教材の開発（1）
13	メディアを活用した教材の開発（2）
14	教材の評価
15	まとめ

評価

各テーマ毎にレポート課題（3～4）を合計60%と、教材開発40%で評価をおこなう。

授業外学習

【事前予習】事前に提供するWeb教材での予習

【事後学修】事後に実施する課題レポートの実施

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する。

科目名	児童文学論C（欧米文学 基礎）		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、社会情報学部コミュニケーション学科マスメディアコースの選択科目であり、現代の英語圏児童文学を、歴史的、社会的背景と関連付けつつ概観する。

授業では、イギリスおよびアメリカにおける児童文学を、年代順に扱う。主要な作家・作品の紹介だけでなく、歴史的、社会的な位置付け、及び現代社会における受容のあり方にいたるまで、多角的に考察する。

学修目標は以下の3点である。

1. 英語圏の児童文学史の概要（作家・作品）を理解する。
2. 歴史的・社会的諸条件における児童文学の位置付けを理解する。
3. さまざまな資料から、児童文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容	
1	イントロダクション
2	児童文学とファンタジー（概論）
3	ルイス・キャロル 『不思議の国のアリス』
4	イーディス・ネズビット 『砂の妖精』
5	ベアトリクス・ポター 『ピーター・ラビットのおはなし』
6	パメラ・トラヴァース 『風にのってきたメリー・ポピンズ』
7	J.R.R.トールキン 『ホビットの冒険』
8	J.R.R.トールキン 『指輪物語』(1)
9	J.R.R.トールキン 『指輪物語』(2)
10	C.S.ルイス 『ナルニア物語』
11	ライマン・フランク・ボーム 『オズの魔法使い』
12	ルース・スタイルス・ガネット 『エルマーの冒険』
13	モーリス・センダク 『かいじゅうたちのいるところ』
14	アーシュラ・K・ル＝グウィン 『影との戦い』（ゲド戦記）
15	まとめ

評価

期末テスト（60％）、授業態度（10％）、提出物（30％）で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】指定された作品・作家について調べる

【事後学修】授業の考察をまとめておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】桂宥子・牟田おりえ 『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房、2004年

猪熊葉子・神宮輝夫 『イギリス児童文学の作家たち：ファンタジーとリアリズム』研究社、1999年

科目名	キャリアサポート		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。

科目の概要

就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアーすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

学修目標

就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指す。

内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など

2. 非言語分野の学習

年齢算、仕事算、旅人算、流水算

グラフ・領域、資料解釈、空間把握

順列組み合わせ、確率、n進法

運動力学など

3. 言語分野の学習

同意語、反対語、ことわざ・慣用句

包含関係、行為関係、原料関係、用途関係

複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

小テスト(50点)、期末試験(50点)等をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストを用いた理解度チェック

【事後学修】練習問題による復習

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本来芸術表現の一分野である身体表現は、人間の精神面、身体面を同時に発育調和させる最適な運動文化である。

また、身体表現・ダンスは身体を動かすことで各人の思想や感情を表現することであるが、日常にも様々な「種」がごろがっている。

そこで、このゼミでは、「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」など、様々なキーワードをもとに、ダンスから大きな意味での身体表現までアプローチしていく。

更に、人間として生きていく上で大切にしていきたいものをきちんと個々の立場から見つめ、今から一歩でも二歩でもステップアップした女性をみざして、そのためには何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする力をつけられるようにしていくことも目指している。

内容

- 1) オリエンテーション(自己紹介、面接等)
- 2) 様々なキーワードをもとに、自らの卒論にするべきテーマを探す
- 3) 提示された本の中から、自ら選択し、それらの内、最も他のゼミのメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明
それをもとにゼミのメンバーで議論する
- 4) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 5) 桐華祭における身体表現発表を企画段階からプロデュースし、そのための必要な情報や技術、コンテンツを準備する
(実技から裏方の準備まで)

評価

平常点60% 準備、調査、発表40% その他議論の際の発言や、準備や発表に対する姿勢など総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】ゼミ内容に関連する内容の資料を準備し、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう予習する。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜授業内で提示する

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

評価

獲得したポイントにより評価します。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・
D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】1週間の中での体験経験を言語化、その中からPDCAサイクルを導き出す。

【事後学修】毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で指示します。

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

評価

日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の無断欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】1週間の中での体験経験を言語化、その中からPDCAサイクルを導き出す。

【事後学修】毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で指示します

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この授業は、社会情報人間生活学部メディアコミュニケーション学科の演習である。

「身体表現」を中心に「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」「身体活動」など様々なキーワードをもとに、「ダンス」から広い意味での「身体表現」までアプローチして行く。

科目の概要

直接身体活動を行ったり、DVDや舞台鑑賞をしたり、関連書籍を読み議論し合い、感性を養って行く。

後期の「演習II」となると、動き中心から、ワークショップ形式を多く取り入れ、ゼミ生自身で問題発見、解決を導くような手法をとるようにする。

学修目標

- 1) 卒業研究のための「素材」「種」を見つける
- 2) そのために、様々なアプローチを試みる
- 3) 卒業後の成長も見据え、一歩でも二歩でも今よりステップアップした女性を目指し、そのために何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする能力を育てて行く

内容

- 1) 様々なキーワードをもとに、自らの卒業論文にするべきテーマを探す
- 2) 提示された本の中から、最も他のメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明する。
- 3) それをもとにゼミのメンバーで議論する。新しい考え方や、他者の考え方(場合によっては相容れないこともあること)を受け入れつつ、取捨選択できるようにする。
- 4) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 5) 発表場面における、身体表現活動の発表を企画段階からプロデュースし、必要な情報や技術、コンテンツを準備する。(実技から裏方の技術まで)この部分は少しウェイトが軽くなる。
- 6) 本などの依頼により、様々な地域の現場における身体活動の指導者に直接インタビューを行い、記事にまとめる。
- 7) 実技だけでなく人に伝える力、自ら考える力を備えるため、必要な知識、情報収集、共有、議論を経てプレゼンを行う。

評価

平常点60%、準備、調査、発表40%。その他議論の際の発言や、準備・発表に対する姿勢など総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】自らの研究テーマに関連する資料を収集し、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう準備する。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度適宜提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

体験重視型の自己成長促進を目指します。

科目の概要

日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

卒業論文作成を行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)の完成を目指します。Mind-Map思考法の発展、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。

学修目標(=到達目標)

自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。

ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 論文作成技法
- 第3回 卒論プレゼンテーション1
- 第4回 就活サポート1
- 第5回 卒論プレゼンテーション2
- 第6回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画1
- 第7回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画2
- 第8回 調査データ分析法1
- 第9回 調査データ分析法2
- 第10回 卒論プレゼンテーション3
- 第11回 共同プロジェクト準備1
- 第12回 共同プロジェクト準備2
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン完成
- 第14回 PC論文作成サポート
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより評価します。日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、ま

まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント
(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D
<60 C <70 B <80 A <90 S (4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

授業外学習

【事前予習】課題文献まとめなど

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「
良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

身体表現ゼミであるが、ダンスにとらわれず身体活動を通して人間のあらゆる角度から幅広く表現することの意味、実践することの意義に焦点をあて、各人が興味を持って調べ、4年間の集大成として卒業研究をまとめる。

内容

自分の興味のあることを楽しみながら調べ、知識を深めていくことが重要である。前期はそのための知識や情報を収集する期間として、各自の参考文献や共通な文献の読み合い、意見の出し合いなどしながら各自の考え方を固めていくことも同時に行っていく。

1. 研究テーマの設定
2. 研究計画作成（卒業研究提出日までの内容計画、中間発表、研究発表）
3. テーマに応じ、文献等を活用し取り組む
4. 卒研発表パネルセッションでのプレゼン
5. 身体表現ゼミ卒業研究会における発表

（以下は、平成25年度の卒研課題例）

オズの魔法使い～映像からみる感情の分析～

ピーターラビットの魅力～動物らしさと人間らしさ～

何が第一印象に影響を与えているか～人から好感をもたれるためには～

聞こえない学生への支援体制の現状について～より良いノート（PC）テイクのために～

海外から賞賛される理由～日本の魅力について～

ダンス経験がコミュニケーション能力に与える影響～パーソナルスペースのデータを元に～

サービスとホスピタリティ～オリエンタルランドを事例として～

婚姻儀礼について～結婚に関するイメージを探る～

スポーツ観戦（応援）時における身体表現～日本プロ野球パシフィックリーグの応援を事例として～

評価

準備状況等 50% 卒業研究内容 50% その他桐華祭参加状況、その他ゼミイベント企画参加状況、下級生教育等 総合的に評価する

授業外学習

【事前予習】自らの研究テーマに関連する内容に関連する資料を準備し、研究の進行を予習の中で進め、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう準備する。

【事後学修】授業で確認した内容を研究に反映し、進行のスピードが遅くならないようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	10クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業論文、または卒業制作を行っていく科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。これまでの4年間で学習したことを十分に生かすことが期待される。

科目の概要

卒業論文のテーマを設定し、必要な資料を集め、章立てを行い、執筆を開始する。年間でスケジュールをたて、目標設定から執筆までを計画的に行う。

学修目標(= 到達目標)

1. 3年の演習時にたてた筋道に従い、計画的に卒業論文を書き進めることができる。
2. 卒業論文はその体裁に則って作成する。
3. 卒業研究全体の作業の50%には到達していること。

内容

- ・ 漠然としたテーマでなく、どこまでを明らかにするのか明確な目標を設定する。
- ・ できれば仮説をたてる。その仮説に関して調査を進めることが望ましい。
- ・ 様々な文献を調査して、客観性の高い結論を導く。
- ・ 論文の体裁を理解して、それに則って書き進める。

評価

卒業論文または卒業制作への取り組み80%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】前回からの進捗についてまとめておく。
- 【事後学修】自分の計画に従って研究を進める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】使用しない
- 【推薦書】木下是雄、理科系の作文技術、中公新書
- 【参考図書】教室で紹介する

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究を完成させる中で、自分の企画力、計画性、行動力、構成力、克己心などを向上させます。

内容

各人の研究成果の進捗状況を報告し、指導を受けます。

評価

プレゼン内容(70%)および討論内容(30%)

授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

『メディア用語基本事典』(世界思想社)

田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年)

田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年)

『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著(新曜社、2008年)

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

自分の問題意識から卒業研究としての卒業論文を完成させていく

科目の概要

卒業論文のテーマ、問題意識、目次構成、参考文献を記した卒論中間報告を作成、その上で卒業論文を作成していく

学修目標(=到達目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする

内容

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

評価

- ・卒業論文(80%)、卒業論文の発表と平常点(20%)の総合評価。

授業外学習

- 【事前予習】卒業研究作成の上での問題点、相談事項などをまとめておく
- 【事後学修】授業での指導を受けた上での卒業研究についての自分の考え・方向性を明確にする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術 インターネット完全活用編」講談社現代新書

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

卒業論文作成を行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)の完成を目指します。Mind-Map思考法の発展、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 論文作成技法
- 第3回 卒論プレゼンテーション1
- 第4回 就活サポート1
- 第5回 卒論プレゼンテーション2
- 第6回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画1
- 第7回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画2
- 第8回 調査データ分析法1
- 第9回 調査データ分析法2
- 第10回 卒論プレゼンテーション3
- 第11回 共同プロジェクト準備1
- 第12回 共同プロジェクト準備2
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン完成
- 第14回 PC論文作成サポート
- 第15回 フィードバック

評価

- 卒業研究中間発表提出物による評価...50%
- 卒業研究最終提出物・卒業研究発表会...50%

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】論文作成とその進捗報告書作成
- 【事後学修】Facebookへの振り返りUP

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

身体表現ゼミであるが、ダンスにとらわれず身体活動を通して人間のあらゆる角度から幅広く表現することの意味、実践することの意義に焦点をあて、各人が興味を持って調べ、4年間の集大成として卒業研究をまとめることをねらいとする。

内容

自分の興味のあることを楽しみながら調べ、知識を深めていくことが重要である。

1. 研究テーマの設定
2. 研究計画作成（卒業研究提出日までの内容計画、中間発表、研究発表）
3. テーマに応じ、文献等を活用し取り組む
4. 卒業研究ポスターセッション参加
5. 身体表現ゼミ卒業研究発表会にて発表（ゼミ関係2・3年生に呼びかける）

その他、『女子体育』に代表されるような外部機関誌における記事執筆や

学童保育における小学生へのダンス指導ボランティアなど、

外部へも、その企画から準備、方法論までを議論しながら積極的に取り組む姿勢を持つ。

評価

準備状況等 5 0 % 卒業研究内容 5 0 % その他ポスター発表参加、卒研発表会参加等 総合的に評価する

授業外学習

【事前予習】自らの研究テーマに関連する内容に関連する資料を準備し、研究の進行を予習の中で進め、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう準備する。

【事後学修】授業で確認した内容を研究に反映し、進行のスピードが遅くならないようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業論文、または卒業制作を行っていく科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。これまでの4年間で学習したことを十分に生かすことが期待される。

科目の概要

前期から取り組んでいる卒業論文を完成させる。年間でスケジュールをたて、計画的に執筆する。当然推敲する時間も必要である。

学修目標(=到達目標)

1. 形式に則った論文を作成できる。
2. 自分で推敲することができる。
3. 議論を通してより完成度を上げることができる。

内容

- ・自分で推敲することができるよう、余裕をもって卒業論文の作成をする。
推敲には書き上げたのち、少し期間をおいてなるべく客観的に読むことが必要である。
- ・議論を通して、より良いものを目指していく。
- ・締め切りに間に合うよう、計画的に研究を進めていく。

評価

卒業論文または卒業制作への取り組み80%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】前回からの進捗についてまとめておく。
- 【事後学修】自分の計画に従って研究を進める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】使用しない
- 【推薦書】木下是雄、理科系の作文技術、中公新書
- 【参考図書】教室で紹介する

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究を完成させる中で、自分の企画力、計画性、行動力、構成力、克己心などを向上させます。

内容

各人の研究成果の進捗状況を報告し、指導を受けます。

評価

プレゼン内容(70%)および討論内容(30%)

授業外学習

- 【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ
- 【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

- 『メディア用語基本事典』(世界思想社)
- 田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年)
- 田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年)
- 『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著(新曜社、2008年)

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

自分の問題意識から卒業研究としての卒業論文を完成させていく

科目の概要

卒業論文のテーマ、問題意識、目次構成、参考文献を記した卒論中間報告を作成、その上で卒業論文を作成していく

学修目標(=到達目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする

内容

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

評価

- ・卒業論文(80%)、卒業論文の発表と平常点(20%)の総合評価。

授業外学習

- 【事前予習】卒業研究作成の上での問題点、相談事項などをまとめておく
- 【事後学修】授業での指導を受けた上での卒業研究についての自分の考え・方向性を明確にする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

白井利明・高橋一郎「よくわかる卒業論文の書き方」ミネルヴァ書房

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は、「インターンシップ」及び「短期インターンシップ」履修の事前授業である(「インターンシップ」「短期インターンシップ」を履修する場合は原則として本講義を履修すること。

科目の概要

企業が求めている人材像(ビジネスマナー、社会人としての基本動作他)、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識更には、インターンシップの内容、インターンシップを受ける際の基本的な常識などについて指導する。

学修目標

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職には必ずしも直結しないが、インターンシップを経験することで積極的な就職活動が可能となる。

内容

1	ガイダンス(講義の進め方の説明、注意事項など)
2	企業とはなにか、企業が期待する女性社員像
3	企業のインターンシップについて(インターンシップに参加した先輩社員の報告)
4	企企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介1
5	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介2
6	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介3.
7	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介4
8	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介5
9	企自治体のインターンシップ 内容紹介
10	ビジネスマナー講座1
11	ビジネスマナー講座2
12	ビジネスマナー講座3
13	資生堂 Top Beauty Specialist 西島悦さんのメイク実演
14	インターンシップの応募手続き方法(学内、学外)
15	まとめ

評価

授業への参加姿勢(40%)、適宜行うテストの結果(30%)、最終テストの評価(30%)

授業外学習

【事前予習】各回の発表企業、自治体名を事前に通知するのでその会社、団体の事前調査

【事後学修】当日発表のあった企業、団体と同じ業界の関連事項及びインターンシップ等の調査

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、提示する。